日本バドミントン協会

バドミントン界

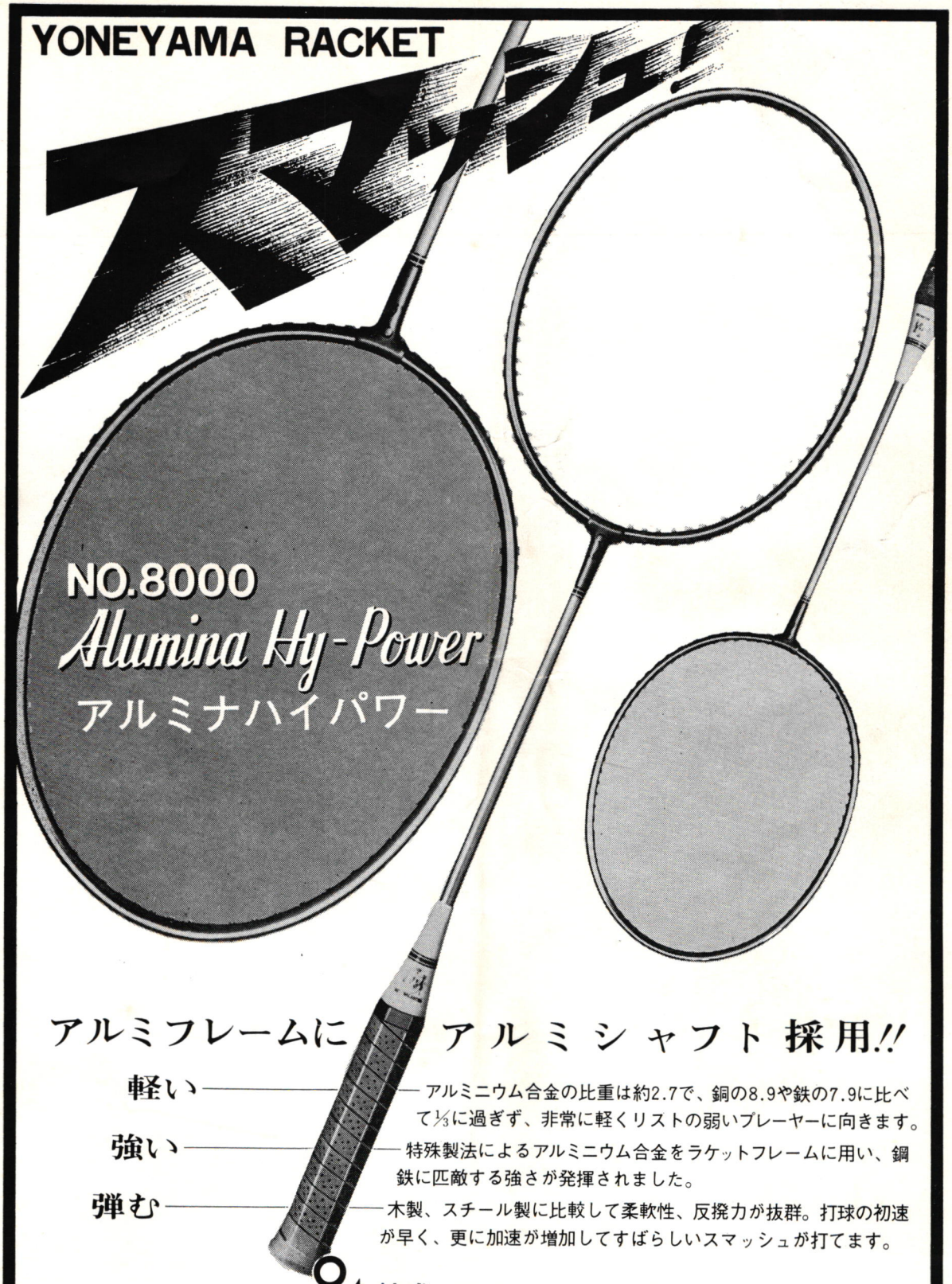
THE BADMINTON WORLD

no.8
1970
april



YONEYAMA RACKET

スマッシュ!



NO.8000

Alumina Hy-Power

アルミナハイパワー

アルミフレームに　アルミシャフト採用!!

軽い ―― アルミニウム合金の比重は約2.7で、銅の8.9や鉄の7.9に比べて⅓に過ぎず、非常に軽くリストの弱いプレーヤーに向きます。

強い ―― 特殊製法によるアルミニウム合金をラケットフレームに用い、鋼鉄に匹敵する強さが発揮されました。

弾む ―― 木製、スチール製に比較して柔軟性、反撥力が抜群。打球の初速が早く、更に加速が増加してすばらしいスマッシュが打てます。

YONEYAMA

株式会社 ヨネヤマラケット

全国運動具専門店でヨネヤマのラケットと御指定下さい。

「バドミントン界」《第八号》

《競　技　会》

▼ト杯決勝総まくり……6
▽全試合評、選手団名簿、総評、選手団の声、〈アピン、敗因の一断面、随想、スタンドの目
▼竹中が全英〝女王〟に……18

《写真グラフ》

▼栄冠と涙　〈ト杯より〉……1
▼若い力……37

《特別企画》

▼トライアングルレポート……15
▽おどろいたシャトルの微妙さ
▽未来めざしあふれる意欲
▼私たちは何を学んだか……24
▽全国高校選抜に参加して　東京・桐朋女子高生の手記

《連載企画》

〈百万人のバドミントン上達法〉……20
▼すぐれた予見と柔軟な体質と（幼少編）……伊藤基記
▼サービスの基本的学び方（中高校編）……遠井稔男
▼続・サービスの重要性（上級編）……毛利清志
〈理事長対談〉第7回 日本レクリエーション協会
専務理事　小川長治郎……5

《よ　み　も　の》

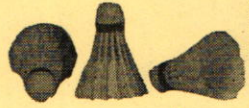
〈グループ訪問〉……23
〈スポーツ・サロン〉……26
▼提言シリーズ　第三回〈傷害補償対策を急げ〉……後藤忠弘
▼第一線選手の就職・進学さき
▼読者の広場
▼北から南から〈盛大に協会20周年行事……群馬〉
〈働く青少年のスポーツ教室……宮崎〉
ルール100問……32
次号予告……36
表紙……36
告知板……33
編集後記……36
〈RECORDE〉……34

表紙／撮影・松井亮俗／デザイン・小浜正道
カット／おおば比呂司・秦浩

水鳥 検定合格球

ファストゴールド

ファストシルバー





ファスト印シャトル
コック製造発売元

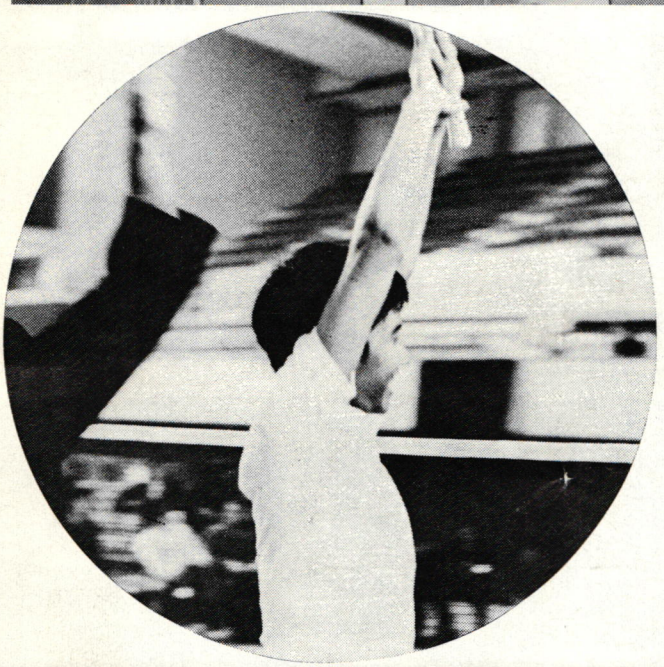
有限会社 ジャワ商会

山形市六日町7-28
電話 02362 (2) 3994

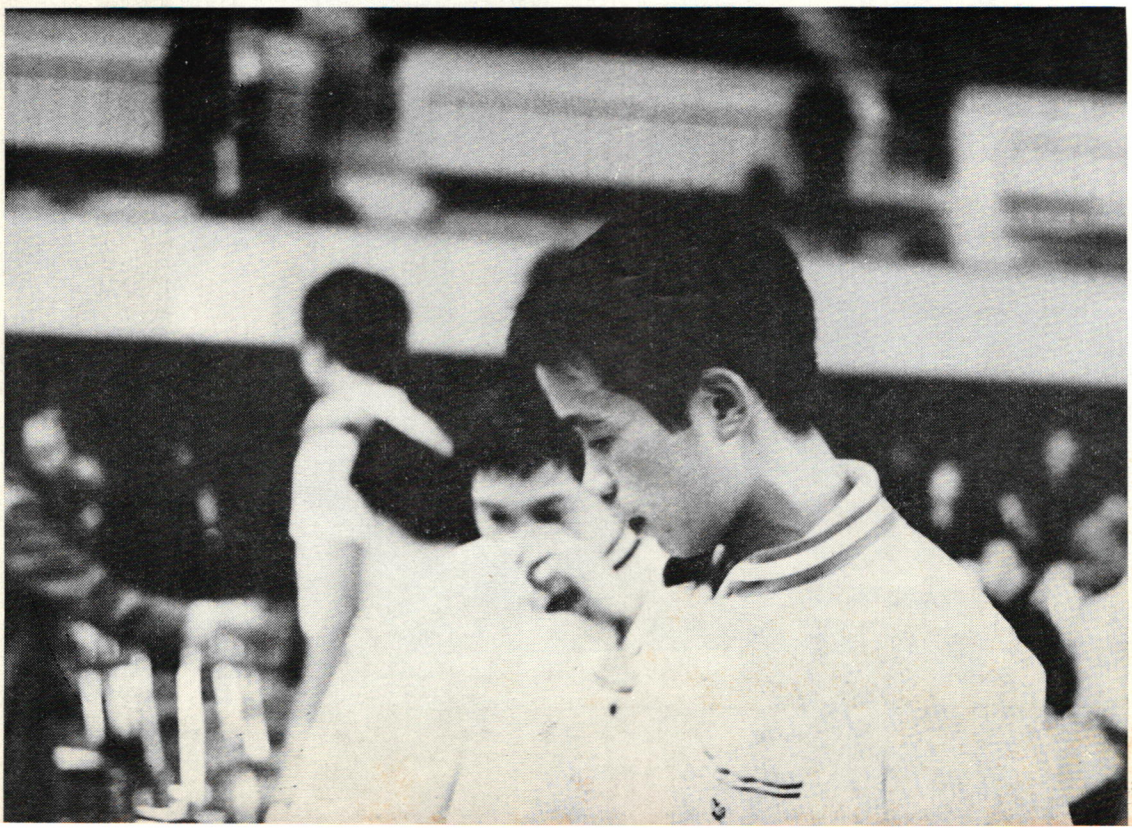


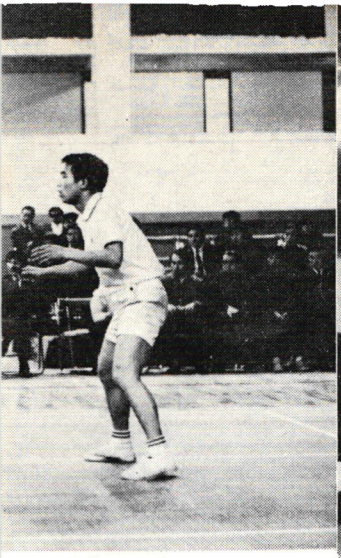
栄冠と涙と

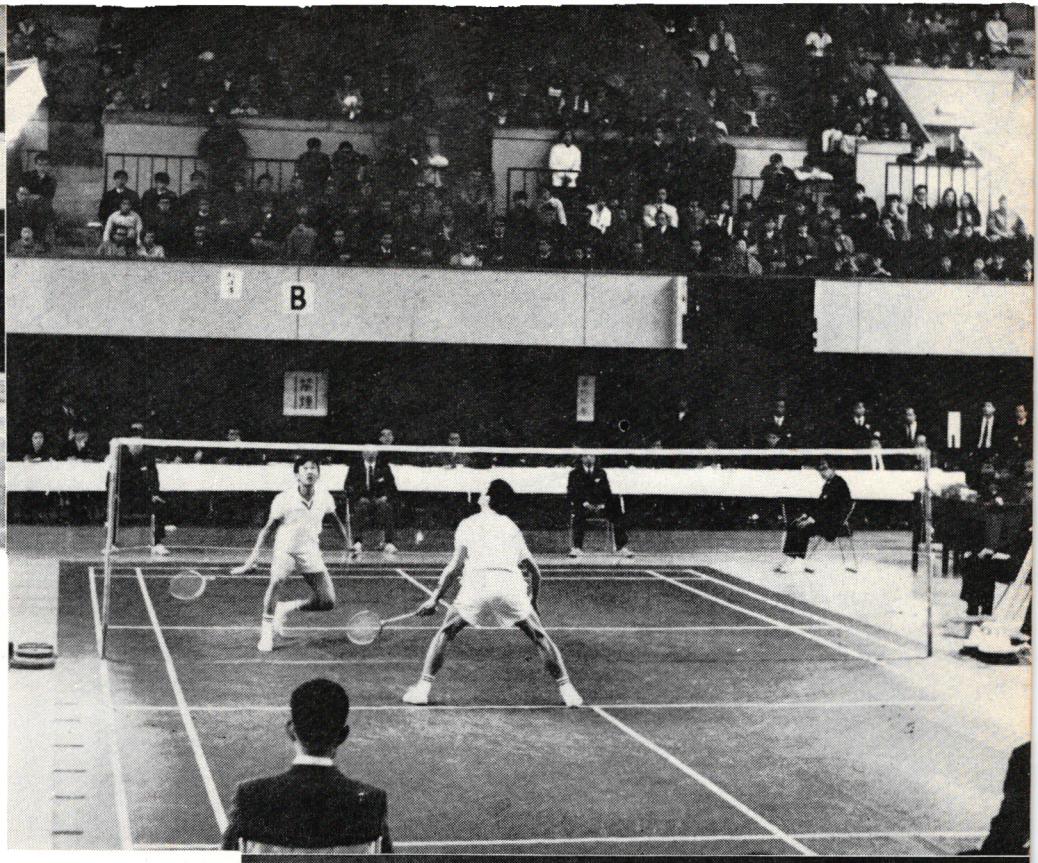
トマス杯アジア決勝
日本×インドネシアから



勝った！　思わずバンザイするハルトノ、その一瞬の日本の表情——全力をつくしたあとに来る虚脱感。秋山はさみしさをこらえ、小島は涙をはらっているかのように見える。まことに勝負の世界は非情である。





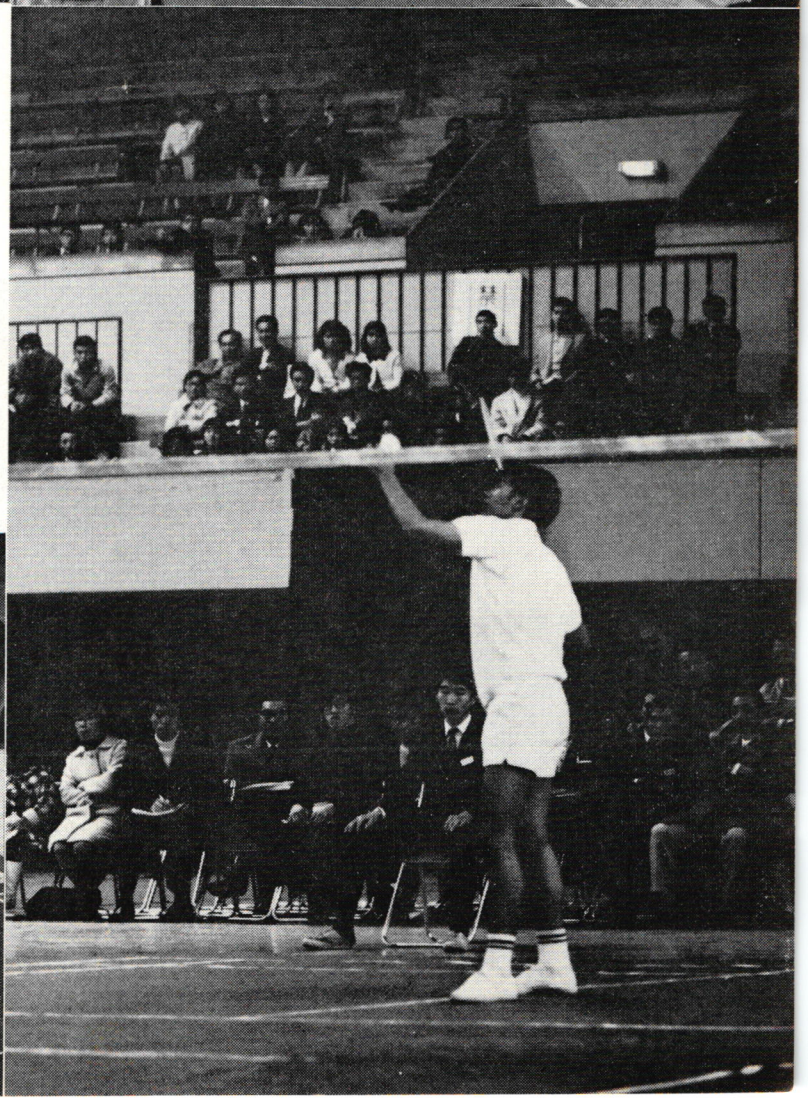


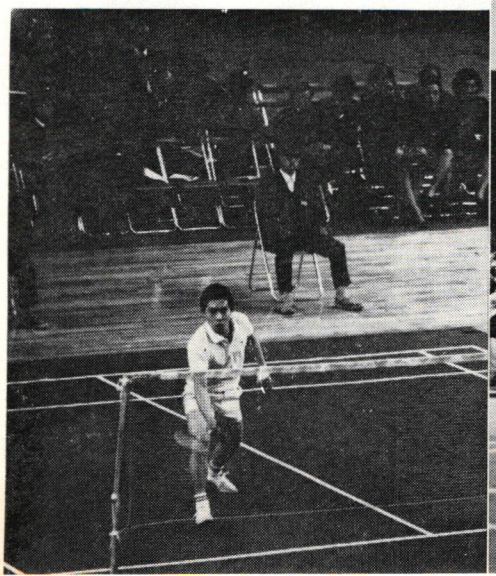
ず　ト杯戦で日本惜敗

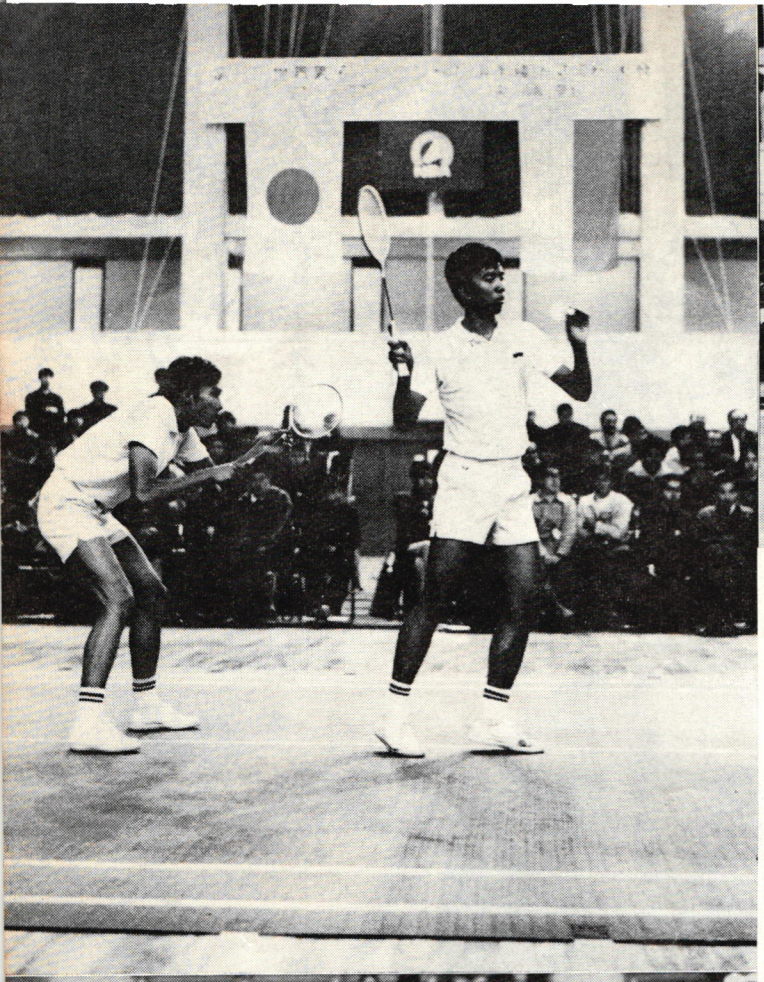
写真説明

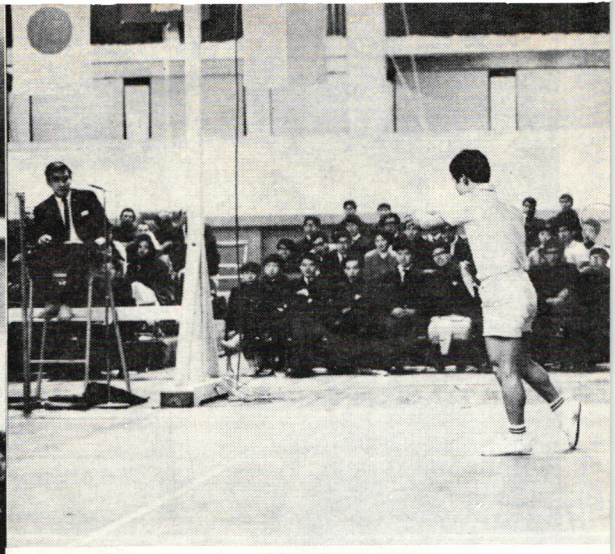
▼右上、寒さにもかかわらず満員のスタンド
▼右下、エース・ハルトノのサービス
▼下、健斗した日本のエース小島選手のレシーブ
▼真中上、小島（左）秋山組のダブルス
▼その下、勝利の瞬間、よろこびのハルトノ
▼左上、ハルトノ、インドラトノ組のダブルス
▼左上、ムルヤジの強打





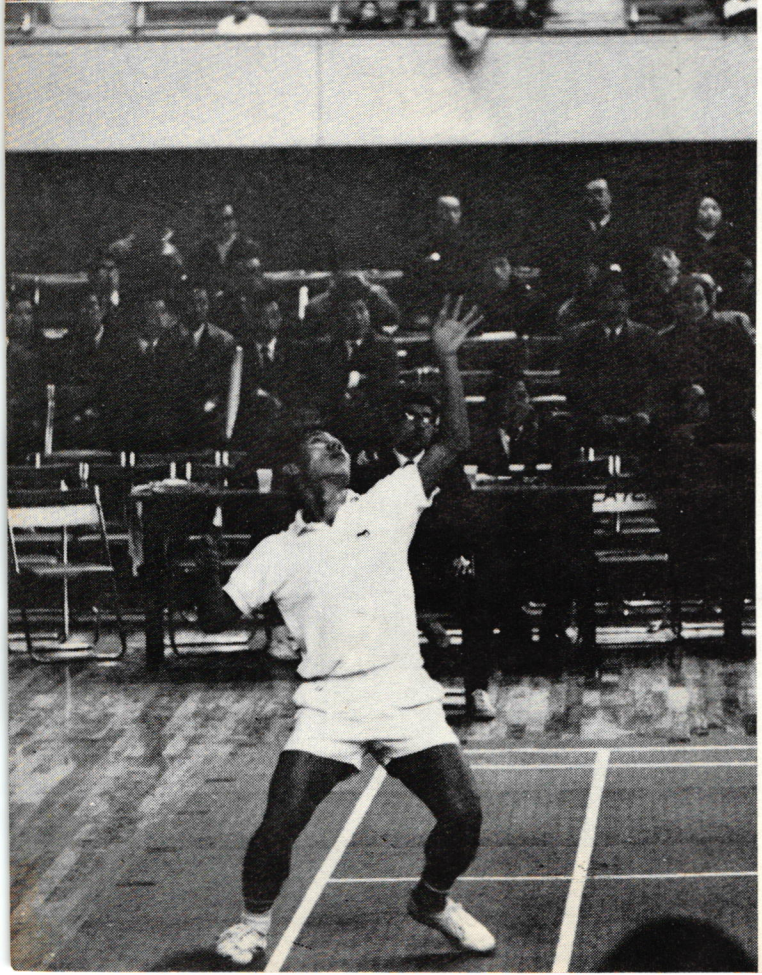






無念、あと一歩、及は



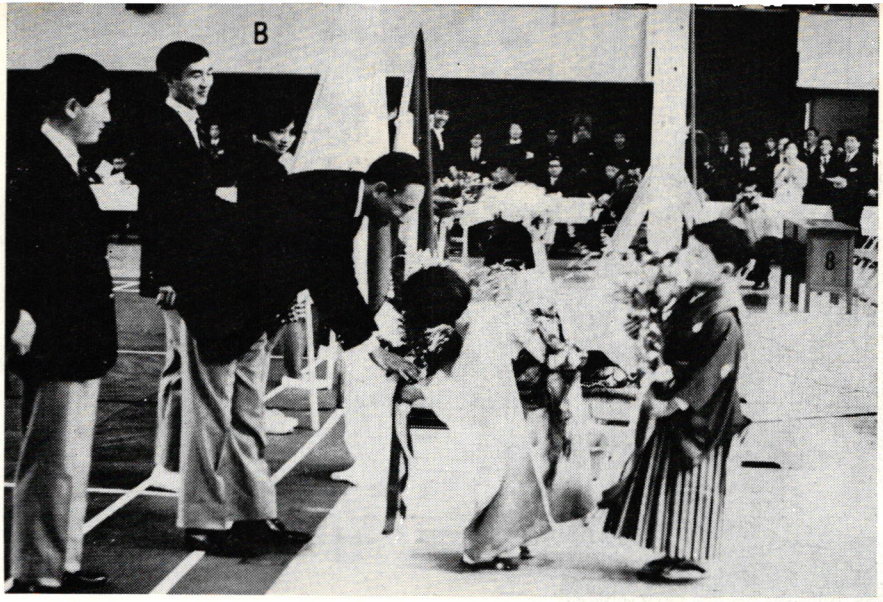


いま考えても、残念な卜杯。アジア地区決勝の日本×インドネシア戦は、その前のタイとインドネシアの対戦が紛争となり、日本の相手がどうなるのか、選手をやきもきさせるという余計なおまけがついたため、なんとなく割り切れないムードのまま〝本番〟へ――というようなこともあったが、正直のところ5―4（実質的には5―3）の対戦スコア、やはり実力差というほかない。

選手団諸君のご苦労を謝しながら捲土重来、あとに続く〝若い力〟が、小島、秋山たちを乗り越えて進むことを信じたい。

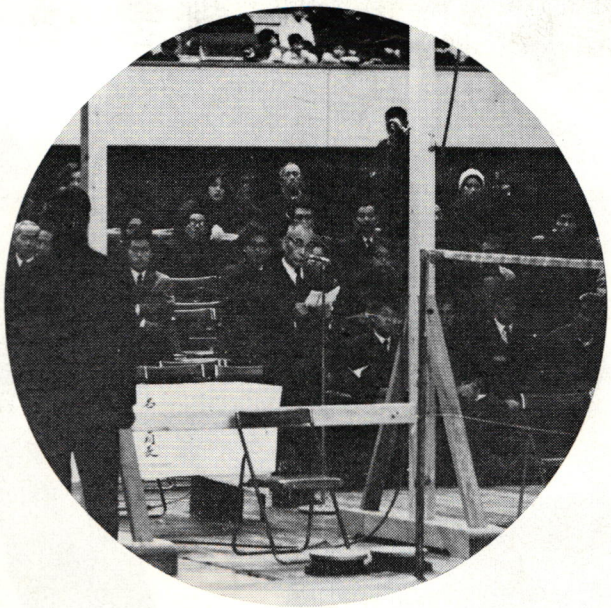
次回卜杯まで三年、すでに、新しい戦いは始まっているのだ。

たたかいの前——開会式から



◀可愛いいお嬢ちゃんの花束贈呈に日本チームの顔もほころぶ

▼両国の親善と健斗を期待する、と本田会長のあいさつ



▼下、あいさつを受ける日本チーム（右）とインドネシア・チーム





理事長対談…⑦



日本レクリエーション協会
専務理事・事務局長

小川長治郎氏

ききて……川端昇市

現代に欠かせぬスポーツの存在

エリートの独占を避けよう

小川　私はね、十五年ほど前、かなりバドミントンを愛好したんですよ。シャトルがナイロン製のやつですが、なにしろ、本式のは痛みが早いでしょう。だから…自分のこども相手で、戸外だと、風の影響が大きいものでね、毛糸玉かなんかのものを打ったこともあるんですよ。

自動車がふえて、道路なんかでラケットが振れなくなり、こどもも大きくなったんで、自然にやらなくなりました。

川端　思いがけぬところで愛好者にお会いできて、光栄です。

小川　だから、私はね、自分のところの職員にもね、バドミントンを奨励したいんですよ。ただ、ここ（岸記念体育会館）の屋上は風が強いものでね。

川端　そうですか。地下三階の講堂は、われわれの方の競技会をしばしばやったりしていますし、借りられるんです。

いかがですか、われわれも出来る限りご協力しますから、盛大にやって下さいませんか。

小川　それはありがたい。私の協会は、競技、勝敗中心ではなく、底辺も底辺、身心の健康のために、身体を使うレクリエーションの普及、奨励をやっているんですが、バドミントンはまさに最適の種目ですね。

川端　はい、私どもは、協会が結成されたころ（昭和二十一年）は「バドミントンは単なるレクリエーションではない。スポーツだ」とPRにつとめ、最近ようやく世界選手権もとれるようになりました。

しかし、普及発展ということを考えると、もう一度、レクリエーションとしての価値を認識しなければいけない、と思っているんです。

ただ、私、ときどき感ずるんですが、日本ではレクリエーションというと、なんか見下してしまう傾向がある…。

小川　そこなんです、問題があるのは。高校や大学の体育のクラブを見ていると、しだいにうまいものだけがクラブを占領し、へたなものは恥ずかしいし寄りつかなくなってしまう。そこで、クラブが〝エリート集団〟化していく…。

エリートも必要ですが、スポーツは、うまいもののためにある、ということになっては本末転倒だと思うんです。

川端　アマは仕事の余暇にやるんですから、まず楽しくやれることが必要なわけだ。

小川　ニガい薬をオブラートに包んで飲ませる配慮が大切です。やたらにスポーツは根性ずくりとか、人間形成とか強調するのではいけない。スポーツは面白いもんだと、みんなにハダで感じてもらいたい。

生産性向上、企業競争に勝つための手段となり、いまは若い人を企業に定着させるために、と目的が変わってきましたね。

私どもの総裁、三笠宮殿下は「かっては人間に必要なものは衣食住といわれた。しかし、現代では、それにプラス・レクリエーションだ」と発言されています。機械力に頼る現代では人間の体力が低下してきましたからね。上手に働いて、上手に遊ぶことが大切です。

川端　そこで、バドミントンをお忘れなく…。（笑）

へたでも食欲が進み、お通じがよくなるから、やってごらんなさい、と。

川端　そうですね、楽しみでやるには、正式のルールにのっとらなければ、ということはないんです。屋外でもいい、素人むきのルール、用具、遊び方なんかを、これからは充分、考えていくべきだと思います。

ところで、最近は企業の厚生活動としてのレクリエーションも活発でしょうね。

小川　むかしは労組対策としてスポーツを奨励した。ついで

特集

トマス杯アジア地区決勝総まくり

苦杯を栄冠に転じより

2月25、26日　京都市体育館

トマス杯アジア・ゾーン決勝で、力及ばず、日本はインドネシアに敗れた。戦前、苦境に立っていることは、あるていど予想されていたが、それが、現実になってみると、やはり、さびしさはかくせない。だが、帰らぬりことをいってみても、なんの役にも立たないのだ。禍を転じて福に、苦杯を転じて栄冠に結びつける努力こそが大切。その願いをこめて、特集をお届けしよう。

痛いダブルスの完敗

単，小島ひとり気を吐く

《第一日》

▽……トマス杯アジア・ゾーン決勝……▽

◆第一日記録

インドネシア 3（単1―1、複2―0）1 日本

▼シングルス

○ハルト 2（15―10、15―2）0 秋山真男

ノ

○インドラトノ 2（15―11、15―3）0 堺栄一

ムルヤジ 0（6―15、4―15）2 小島一平

▼ダブルス

○ハルト ノ、インドラトノ 2（15―11、15―3）0 堺栄一、本間順次

ムルヤジ、インドラグナワン 2（15―18、15―14、15―6）0 秋山真男、小島一平

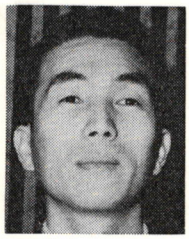
……評……

「インドネシアはシングルスに強く、日本はダブルスに勝機がある」――試合の前、両チームともこう考えていたそうだ。そこで試合直前、インドネシアはダブルスを、日本はシングルスを重点的に強化したという。そして結果は、事前のトレーニングが効果をあげたか、シングルスは3―2で日本、ダブルスは3―1でインドネシアと、皮肉な記録が残った。

第一日は、日本のダブルス陣が完敗したのが、なんとしても痛かった。第一ダブルスの堺・本間組は、長身のハルトノ・インドラトノ組を走らせて、第一ゲーム11―11と追いついたが、肝心のところで二人に凡ミスが出て4ポイント連取され、第二ゲームはハルトノ組のペースに乗せられて強打に屈し15―3と一方的に敗れた。この大会前に組んだ即席ペアだっただけに、連係プレーで相手の強打に対抗するのは無理だったかもしれない。

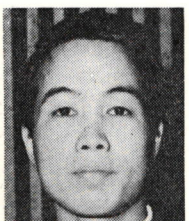
第二ダブルスの秋山・小島組も前半よく動いて第一ゲーム14―14としながら、これも最後のツメを欠いて18―14。第二ゲー

日本選手団名簿



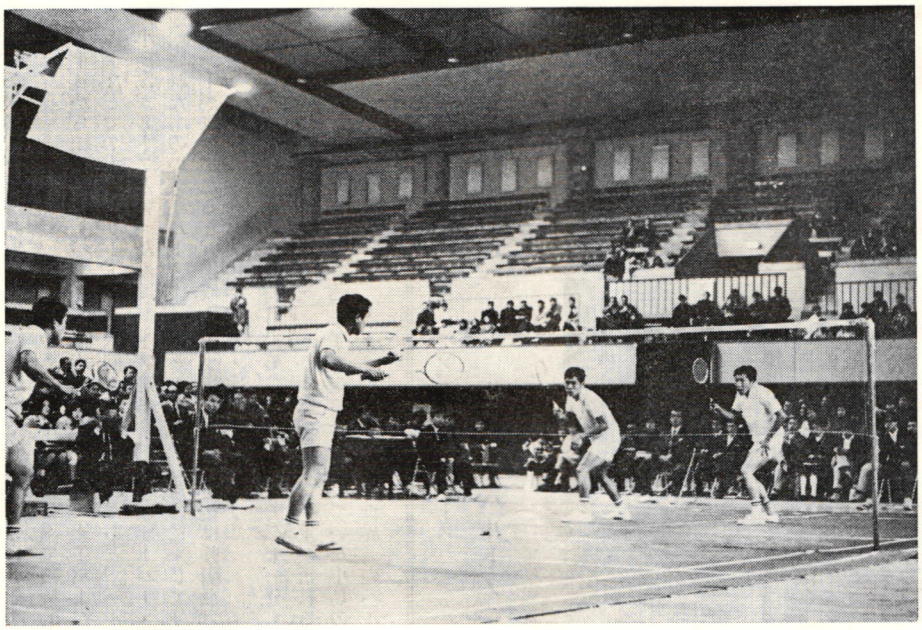
選手（主将）
堺　栄一

早大出、30歳、東京都、170㌢、68㌔、河崎ラケット。64年カナダ・オープン複1位第6回トマス杯（64年）第7回（67年）出場。68年全米オープン複2位、69年全日本社会人複1位。



選手
秋山　真男

中大出、26歳、山梨県、166㌢、57㌔、秋山紙店専務。66年第56回全英選手権単2位第7回トマス杯（67年）出場、67～69年全日本総合複1位。



ムも一方的に敗れてしまった。

両試合とも、まったく同じ負け方。インドネシアは両ペアとも、力で押してくるだけでフォーメーションなどなかったのだから、じっくり構えて相手の弱点を見つければ、あるいは勝機が見出せたかもしれない。

日本は優位に立ったときポイントを連取できないという弱味が目立ったが、これは国際試合の経験と、せり合ったときの気力の点でインドネシアに劣っていたとみるべきだろう。

シングルスで秋山がインドネシアのエース、ハルトノから第一ゲーム10ポイント取ったのはむしろ健闘といえる。シングルスの第一人者・小島は無駄のない動きでムルヤジにストレート勝ちして第一日のシャット・アウトだけはのがれたが、日本は早くも絶対のピンチに立たされた。（読売新聞・小林範夫）

《第二日》

小島、ハルトノと大接戦

ファイナルで涙のむ

◆最終日記録

インドネシア 5（単2―3 複3―1）4 日本

▼シングルス

○ハルト 2（15―1 15―18 6―1）1 小島一平

ノ

ムルヤジ 1（10―15 17―15 15―4）2 秋山真男 ○

ダルマジ 1（9―15 15―5 17―15）2 本間順次 ○

▼ダブルス

ハルト ノ ○インドラトノ ムルヤジ 2（15―6 15―3 12―15）0 秋山真男 小島一平

インドラグナワン 1（15―6 4―15 15―13）2 梅野尾昌一 西野一征 ○

……評……

第一日に3―1と日本がきわめて不利となったため、集まった千八百人の観衆は、はじめから、日本の勝利を半ばあきらめていたようだ。しかし、この日の第一試合、ハルトノ×小島の一戦が、こうしたムードの観客にバドミントンの面白さを十分たんのうさせた。

第一ゲーム、ハルトノは、正確なストロークと、ときおりリストを使って打球の角度を急にかえる高度なテクニックを見せ小島を前後左右に走らせ、あっさり15―6としたが、第二ゲームでハルトノの攻めがやや単調となったスキに、小島がすかさ



選手 小島 一平

中大出、26歳、神奈川県、160㌢、60㌔、ヨネヤマラケット。

第7回トマス杯（67年）出場、69年デンマーク・オープン複1位、全英選手権複3位、全米選手権単3位。

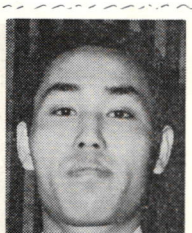
67～69年全日本総合複1位、66～69年全日本総合単1位。



選手 西野 一征

中大出、25歳、東京都、174㌢、64㌔、ニシヤ商店。

67年デンマーク・オープン複1位、67年全日本社会人複1位69年全日本総合単、複3位。



選手 梅野尾 昌一

法大四年、22歳、富山県、176㌢、68㌔。

67年第3回国際学生選手権複

ず立ち直り、自分のペースをつかんだ。

4―4から相手のオーバー・ネットなどで7―4とリードした小島は、8―7といったんは逆転されたものの、ハルトノのショットがラフになると、果敢に攻めて12―8。しかしハルトノもねばり強く、小島を前後にゆさぶって13―13のセッティングとし、17―13と小島を追い込んだ。

だが小島は攻撃のテンポをはやめ、コートの前に出て積極的に攻め、サービス・オーバーが六回もくり返されたあと、ハルトノがあせって再びオーバー・ネットをおかしたのに乗じてサーブ権をとり、最後は強引なスマッシュで決めた。

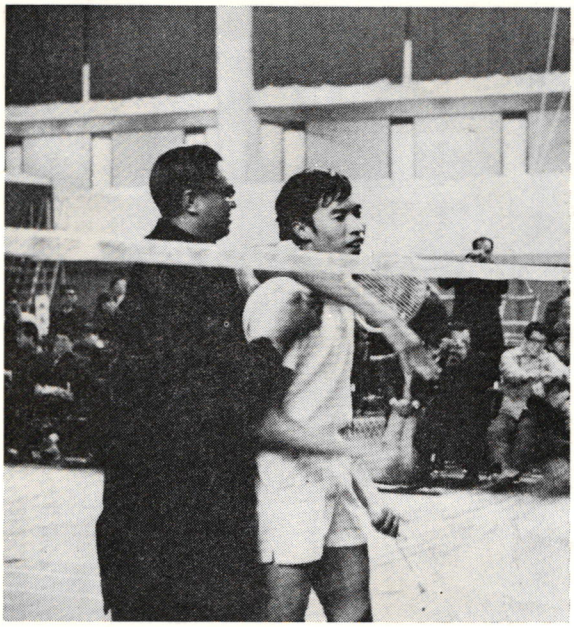
第二ゲームだけで三十一分もかかった大接戦。「足が折れるまで走る」といっていた小島のファイトが、実力世界一のハルトノを、あわてさせた一戦だった。ファイナル・ゲームをスタミナ不足から落としたのが惜しまれる。

苦戦したとはいえ、ハルトノはやはり世界№1。小島をコート左にくぎづけにしておいて右に曲るスマッシュを打つのを攻撃の軸としていたが、ネットの上に乗って相手側にポトリと落ちるヘアピン、顔を右に向けておいて左へ小さくプッシュするフェイントなど、やはり多彩な攻撃ぶりだった。

秋山がムルヤジに、新人の本間が出ないダルマジに勝ち、そしてダブルスの最終試合もモノにしたのだから、第一日の不振がかえすがえすも残念だった。

敗れたとはいえ、インドネシアと日本の差が、年々少しずつではあるが、つまっていることを感じさせた二日間だった。

（読売新聞・小林範夫）



ヒーロー

ルディ・ハルトノ

インドネシアのエース

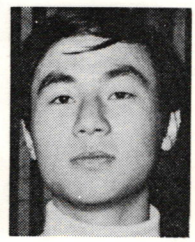
「ステキね」「かわいいじゃない」――スタンドの若い女性ファンのささやきが聞える。すらりとしたからだつき。色浅黒く整った顔立ち。まだ二十歳の若さ。ドロップ・ショットを失敗したときなどに見せる困ったような顔つきが、女性には魅力的なのだろう。5ポイント先取のこの試合で、単複4ポイントをあげたハルトノは静かなヒーローだった。

ハルトノが日本のファンに初めてその姿を見せたのは、さる四十一年十二月の全日本総合選手権大会。当時、名前をルディ・ニイオといい〝インドネシアのホープ〟というふれこみだったわりには、ひ弱な感じで、三回戦で西野一征（当時中大）にあっさり敗れた。だが翌々年春には、事実上の個人世界選手権といわれる全英選手権に優勝、あっという間に世界ナンバー・ワンの地位におどりあがった。

その秘密は「バドミントンが生活」といわれるような猛練習だという。ハルトノの家は中国系でインドネシア土着の名門ではないが、ルディの妹ウタミは、ユーバー杯代表として来日したほどの選手。若いうちにじっくり走り込んで体力をつくったことが、目をみはるような高度な技術を支える、土台になっているようだ。

「小島はいいプレーヤーだ。日本は毎年強くなっているのでうかうかできない」とインドネシア・バドミントン界の〝プリンス〟にふさわしく、落ち着いた調子で語った。マッチのコレクションが趣味、大学に進学したばかりだそうだ。（K）

★　★　★



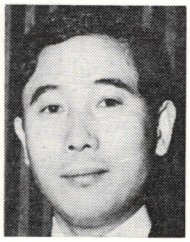
選手
本間 順次

中大三年、21歳、新潟県、176㌢、68㌔。68年第4回国際学生選手権複1位、単2位、68～69年全日本学生単1位、69年全日本総合単2位。69年全日本学生複2位、68年全日本総合複2位。



監督
小宮 淳宏

慶大出、39歳、神奈川県、花見煎餅吾妻屋総本店専務、日本協会副理事長、第4回ユーバー杯（66年）監督。



コーチ
福井 正康

早大出、36歳、青森県、河崎ラケット・バドミントン課、早大講師、第4回ユーバー杯（66年）コーチ。

総評

共同通信
竹市行男

体位の差に問題点

技術では負けていなかった

5―4というスコアから見れば日本の〝完敗〟とはいえない。またいわないが内容的にまだまだの感があり、日本にとってアジアの壁はとてつもなく厚いと思った。僕は男子チームの役員、選手がともに世界の強豪の仲間入りにどれだけの努力をはらい、熱望しているかを知っている。彼らがいかに苦しい練習に汗を流し、耐えて自分らの手でこの夢を実現したいと願っているかを―。それだけに今回の結果は残念である。

各ゲームの詳細は戦評に譲るとして最も気のついた事を書いてみた。何かの参考になれば幸である。僕は終始観戦していて「日本の技術はインドネシアと比べ、けっして見劣りがない」と思った。そんな高度な技術を持ち、発揮しながらなぜ負けたのか。その最大の理由は…。単純かも知れないが身長の差にそれが出ていたと思う。日本の主戦小島は160、秋山は166㌢、一方インドネシアは公表されないがハルトノが178、ムルヤジ172㌢と170台。身長差だけではない。当然、リーチ、ストライドの総てに日本選手は小型だった。その差がどう出ただろうか。

バドミントンはいまさらいうまでもないが、シングルスが6 70×518、ダブルス670×610㌢のコートに155㌢のポストとバードの落下曲線の平面、立体を組み合わせ、それをフルに活用したスポーツ。この二大要素を完全に克服し、また相手の心理を読んだかけひきが全部そろい、熟達してこそ強い選手といえるわけだ。

日本選手はコートの活用ではリーチ、ストライドの不足を軽快なフットワークで補なったがそれにも限度があった。また立体的な面、とくにスマッシュをあげれば打点の低さから鋭角に突きさるような威力が見られず、せっかくの強打も角度のなさが痛かった。

これに対しハルトノのスマッシュはどうか。178㌢の彼はジャンプし、相手がリターンした直後まだ体勢を立て直す余裕がないうちにスマッシュを打ち込む。そしてすぐ次の攻撃へとスムーズに、ムダなく動いていた。またコート・カバリングの広さもさすがだった。僕はなぜ彼が二年連続で全英選手権勝者になったかの理由がここにあると思った。

今度の敗戦はこのほかにもいろいろあるが、天性のからだの柔かさ、動物的なまでのカン、試合経験の深さなども一因だった。といって悲観する必要はさらさらない。次代を背負う若手をみると本間、西野、栂野尾らがともに174～6㌢台。大型である。今後は彼らが相手の動きを読むだけの冷静さ、深い試合経験とさえたカンを身につけるかだ。それに決め手となる特技。

大変な要求だが、若手がどこまでやれ、指導者が彼らの持ち味を伸ばせるかが問題だ。選手、指導者、協会が三位一体とならない限り一朝一夕に達成しないだろう。この大会の反省をもとに関係者が次にどんな強化策を図り、その結果がどんなものか―。僕はそれに注目したい。

大会の運営はどうだったか。タイ×インドネシア戦のトラブルなど〝波乱含み〟でスタートした大会だが、表面的には一応平穏無事に終ったといえる。大会関係者の細心な配慮はわかるが、いただけない点も多かった。まず第一に試合開始時間の大幅な遅れ、観客に対する速報の不足。これは何も今度の大会に限ったことではない。一般的に「バドは運営ベタ」の点が多いようだ。

試合開始時間はもっと早い時刻から出来ないのだろうか。第一日は四試合で、全てストレート、終ったのが九時過ぎだったが、最終日は五試合でファイナルにもつれ込んだのが四つもあり十時四十分ごろ。観客は時間を気にしながらの観戦だった。それと決められた時間に必らず試合が始まること。今回は二日間とも三十分から四十五分遅れのスタート。それも乱打やバードの選択をしたりでは…。こんなことは事前にきっちり準備しておくべき事ではないのだろうか。また観客に対する試合結果もわずかにアナウンスだけ。館内に掲示するぐらいの〝親切気〟はなかったのか。こんな初歩的なサービスはどの競技団体でも必らずみられることだ。

バドミントンが過去のように脚光を浴びないマイナー・スポーツの時代ならこれでも良かったと思う。だが女子が世界一となり、徐々にだがファンもふえている。また協会もファンの倍増に懸命だ。マイナー・スポーツにありがちな「自分たちだけが楽しみ、運営していればそれでいい」という時代はもう過ぎ去った。選手、観客、報道陣などに対する適切な情報の伝達やそれらの要望に応える資料の提供などまだ改善すべき点が多いといわねばならない。

そのためには関係者が他の競技団体がどのように大会を運営しているのかを各部門別に見学し、参考にすることも一手だ。そこからバドミントンならではの運営スタイルを作り出すことが大切だと思う。いったいそこまで大会運営者が熱意を持っているのか、これまでのやり方でいいと考えているのかが大きな問題なのだ。

願わくば日本協会、地方各協会の現役員、東西学連の若手などが真剣に「大会運営はどうすべきか」に取り組み、地道な前進をしてもらいたいと思う。その意味でも今大会は成果があったと考えるのだ。

多角的な強化対策が必要

▶選手団の声特集◀

・・・ 苦杯から得た〝反省と収穫〟と ・・・

〝複〟対策の甘さを痛感

コーチ　福井正康

日本は、インドネシアに敗れた。しかし、その斗いぶりは立派だった。戦前からインドネシアの優勢は予想され、その予想どおりエース・ハルトノの強さは抜群であった。日本の誇る小島・秋山両選手が全力を尽したのだが、遂にハルトノには及ばなかった。つづく、ムルヤジとダルマジはハルトノほどの強さはなく、秋山・小島・本間の三選手が快勝して単で三勝二敗と勝ちこしたことは見事な戦績といえる。

しかも初日1対3と先行された劣勢を二日目、奮起して単に二勝をあげ3対4と追いつき、今一歩と迫ったのだ。まず小島がハルトノとの第二ゲームにみせた、すさまじいばかりの斗志（マッチ・ポイントを四度握られながらも冷静な判断と大胆なショート・サービスの連発でハルトノのミスを誘い、ついにそのゲームを手中にする）。

続いて秋山が逆に第二ゲームのマッチ・ポイントを逃がしたあと第三ゲームでは沈着果敢なムルジャジに13―10と追い上げられ、死力を尽してその追撃を食いとめた息づまる熱戦、さらにト杯の桧舞台で全英二位のダルマジを相手に一歩もひかず、堂々と打ち勝った若冠二十一才の本間の活躍等、日本選手の単の奮斗は誠に全観衆に大きな感銘を与え、本田会長のお言葉どおり最後の五分間まで力をふり絞ったのである。

しかしながら事ダブルスに関しては全くツキに見離された感ありで、インドネシアのペースに乗せられたままで一挙に終局を迎えてしまった。ハルトノ・インドラトノ両長身選手が最後の瞬間まで打ち続けるジャンプ・スマッシュのスピードとその持続するスタミナに眼を開き、反面、その威力に対する策の甘かった事を深く反省する。今回を含めて日本は連続三回のト杯でタイ、マレーシア、インドネシアと対戦した。いずれも敗れはしたが、内容は回を追う毎に上昇している。経験は十分積んだ。アジア三強が国力で強化するならば日本は知力をふりしぼり次の機会に挑戦しなければならない。

京都の試合は、現在の日本の力を最高に出し切った試合であり、それは必ず近い将来、ト杯獲得の力につながると思います。

選手諸君は早く敗戦の傷手から立ち上がってほしい。そして日本協会の全員が、会長のお気持ちを載して、ト杯の栄冠にむかい、強力な選手の支援、強化体制をつくらなければならないと銘記するしだいです。

早く〝傷手〟から立ち上ろう

監督　小宮淳宏

第八回ト杯戦については、本田会長はじめ、全国の皆様のご期待を裏切る結果となり、残念に思います。とくに、この二年間、あらゆる犠牲をはらって黙々と練習を続けたコーチ、選手の諸君には、その努力にむくいることが出来ず、ご家族や職場の方々のご協力に対しても、なんと申し上げてよいか、わかりません。

また、その間、物心両面にわたり、ご支援下さった方々のご好意に深く感謝いたします。



本田会長の気迫

今大会中、最も気迫にあふれていた人は、本田・日バ会長ともっぱらの評判。社務のため第二日だけの観戦となったものの挨拶では〝大和魂〟〝勝敗は最後の五分にあり〟と選手団にハッパをかけ、午後四時から十時までの間、たった一度、五分間、中座しただけ。じっとスタンドで腕組み、この大会にかけた、なみなみならぬ熱情をしのばせた。

小島君が切腹？

4―3とインドネシア優勢のまま迎えた第三試合ハルトノの豪快なスマッシュが決まって日本万事休す。ベンチに帰ってきた小島選手、さすがに精根つき果てたか、しばらくはぐったり。うつろな目で会場の一角に目をすえていたが、そのうちに〝チクショウ〟と一言、やにわにナイフを取り出し、腹につきあて「切腹したい心境ですョ」これには周囲もなぐさめの言葉が出ず「マア、マア」

卒直に認める実力差
今後は海外遠征盛んに

ミニ・インタビュー

きいて　柏木葉子

――本当に残念でしたが、苦戦の原因、敗因はどこにあったのかということなんですが…。

秋山　はっきりいって、実力差だったと思います。チーム編成がシングルス用、ダブルス用と分けられる層の厚さ、また、それだけの訓練ですね。ダブルスでは百分を11秒台で走り、長身でパワーのある選手がそろっているなど、理想的な陣容です。

小島　申しわけない。インドネシアとプレー上の差は、それほどあるとは思いませんが、ひと口でいうとキャリア、厳しさの差…があります。

梅野尾　ぼくなんかチームの一員に加えられたことだけでも大変な名誉で、口はばったいことはいえませんが、小島さんのいわれたとおりだと思います。

一日目は完全に気力負け。ただ、ダブルスは攻撃力の差がはっきり現われていたような気がします。

本間　初出場でアガる、不安になるということはなかった。ただ、とにかく勝つことに集中したつもりですが、ダブルスでは力を出し切れずに不本意な負け方をしてしまって…。

――インドネシアはバドミントンが国技だ、国が援助しているといわれているそうですが。

小島　ハイ、そこから来る環境のちがいは否定できません。

情報不足もたたる

主将　堺　栄一

敗因は、やはり初日のダブルスで1ポイントもとれなかったこと、これが大きな誤算です。いろいろな見方があるようですが、ひと口にいうなら彼等の二つのダブルスについて、正確な情報をつかめなかったことが、最後まで尾を引く結果となってしまいました。

インドネシアはハルトノ以外は全て同じ石油会社に勤め、しかも出社せずに練習に打ち込める、なかばプロと同じ、我々には考えられない環境です。技術的には抜群のサービス、スナップがきき角度のあるスマッシュが学ぶべき点でしょう。特にサービスはここ数年、日本に進歩がない。早急にマスターしなければなりません。

今回の我々のチームは、各々がそれぞれの目的を持ち、それを追求しながら、かつ、よくまとまっていました。今後、日本が世界へ飛躍するための課題はとにかくできる限り対外試合で経験を積むこと、特に、招待があった時などは主力とともに素質のある若手を積極的に送り込む配慮が必要です。

また明日を背負う若い人達に望むことは〝バドミントン〟に対する探究心、姿勢といった面で、もっともっと厳しい努力をして欲しいことです。

もうひとこと、いわせてもらうなら此の大会を迎えるにあたって役員、選手一体となった盛りあがり、まとまりが何か欠けていた気がします。

日本のアマチュアは職業があって、その余暇に練習をするわけですから、彼等のように、選手生活に徹することは不可能に近い。気迫、気力では、ボクも絶対負けぬつもりですが、日ごろの厳しい練習の積み重ねが、せり合った大事な場面に、差となって出て来ますね。

梅野尾　たしかに〝なにがなんでも勝たねばならぬ〟という執念を相手から感じた。

秋山　国家的強化策の利点はある。つい最近まで、マレーシア、シンガポールの選手権などで、大したことのなかった選手が〝グンとのびていましたから。ハルトノは全英二連勝が、自信となっていたようですね。

――今度のト杯を通じて得た収穫などは。

本間　収穫というより反省。ボクはまだまだ甘いなあ、と感じました。技術、試合運び、気力すべての面で…。とくにサービスが不安定だった。

梅野尾　似たような話ですが技術面ではサービスの絶妙なうまさ、スナップのきいた一発必中のスマッシュなど、大いに学ぶべきだと痛感しました。

それから、大きい試合の場数をふむことの大切さ。

――では、日本はこれから、どうやっていけばいいか〝打倒インドネシア〟になにが一番必要でしょうか。

秋山、梅野尾　できるだけ多く、海外選手と試合して経験を積むことです。合宿の回数を多少へらしても、その方がいい。日本は第一線とそれ以下の層の間に、かなりのレベルの開きがあります。

そのためにも素質のある人は実績にかかわらず、どんどん遠征に加えてほしい。それと中高校生を中心にした底辺の充実、レベル・アップ策を強力に推進してもらいたいですね。

小島　それと同時に、一人一人が目標を高く持ち、そのために、みずから努力すること。お前も、後輩を育てろ、それが義務だ、といわれることがあるんですが、ボクは、自分が持っているものを伝える、というより、若い人たちが逆に、ボクを踏み台にして乗り越えていってほしいと思う。せり合ってこそ励みも出るし、進歩がある。

――どうも。巻き返しを期待しています。

小島　とにかく、もう一度インドネシアに挑戦したい。がんばります。

本間　今度の経験をじゅうぶん生かして、必ず勝つ気がまえでやります。

《敗因の一断面》

強化体制にちらつく甘さ

〝男女そろって世界一〟関係者のここ数年来の希望は、ことしも男子のアジア・ゾーン決勝敗退で達成への足がかりを失なった。

インドネシアがめっぽう強くその実力の前にいやおうなしに屈してしまったというわけではなかった。ハルトノひとりに日本が振りまわされた——つまりインドネシアの強さよりも日本チームのふがいなさの方がより目立ったといいたいような内容だった。どこに原因があったのか。私は、どうも日本チームの〝甘さ〟にあったような気がしてならない。

試合を控えた数日前、小宮監督は日本の勝算をダブルス4勝とシングルス1勝で合計5勝とふんでいた。ダブルス4勝の目算というのは、インドネシアのダブルスは昨年の全英選手権に出ていない。ということは、全英選手権に出るほどのペアがいないことだろうというものだった。

だがこの予想はあまりにも楽観的であるように思われた。過去三回、世界チャンピオンのインドネシアが、現在、選手交代期にあるとしても、チームを編成する場合、シングルスだけが強くてダブルスは全然ダメという〝片肺飛行〟であるはずがない。

もし、昨年まで変型をよぎなくされていたとしてもアジア・ゾーンを控えての一年間、ダブルスを徹底的に強化しているはずだ。

日本のダブルスは伝統的?に弱い。勝算の内容がダブルス4勝に支えられているとしたら、日本の状況判断は甘すぎると思わざるをえなかった。

試合が終わった。案の定、日本はダブルスが敗因となってしまった。技術的欠点もダブルスに多かった。サーブが甘い。これは明らかな欠点だった。日本は、ダブルスで勝とうとしながら、なぜ基本的な問題が忘れられていたのか。日本協会の選手強化本部づくりに欠陥があるのではなかろうか。

本当に〝男女そろって世界一〟という最高目標を達成しようと考えているのなら、弱い方の男子を集中して強化する体制を、なぜつくらなかったのか。昨年六月の女子ユーバー杯初防衛が終わる前から強化本部長をトマス杯監督として協会の力を集められなかったか。

協会副理事長の小宮氏が今回の監督として不適任というのでは決してない。男子を、小宮監督と福井コーチにまかせたまま〝世界一〟と口でだけいった協会理事会、特に強化本部の〝甘さ〟が日本チームに出てしまったのではなかろうか。

二月十五日、東京・神田の電機大で行なわれた全日本社会人対学生対抗競技会の時、川端理事長がいった。「これじゃあ、インドネシアには勝てっこない。ダブルスがなっていない」

私はこのことばを聞いて思った。川端理事長も六十四年に日本チームをひきいた人だ。経験を生かして今回チームづくりに技術面からも協力したのだろうが。電機大の会場には六十七年の監督だった内藤氏もいた。「先輩が顔を見せないと後輩が育つのでね」試合後のロビーでそんな冗談をいっていた。本当にそうであればいいが…と私は思った。

なんといっても日本のバドミントンはまだ若い。若さというのはいい面もあるが、経験不足という点はかくせない。今回、敗れた原因は他にも色々あるだろう。しかし若さのいい面を生かしてもらいたかった。少ない経験を充分、活用するとか無理のきく若さを利用して何でもどん欲に吸収するとか。

私の目にはどうも甘ったれた若さがちらついた。個人的老婆心であれば幸いだが…。

（報知新聞・吉広紀代子）

●トマス杯とは●

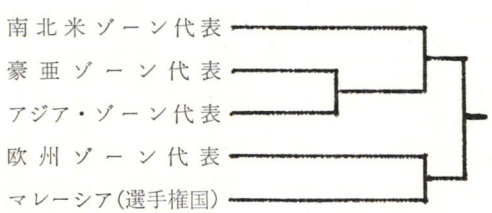
バドミントンの世界選手権は男女とも国別の団体戦のみで、一年のずれがあるが各々、三年ごとに開かれている。男子はIFB初代会長（一九三四～五五）のジョージ・トマス卿（SIR GEORGE THOMAS、BR）がカップを寄贈したので、トマス杯争奪世界男子選手権大会（トマス杯大会）と称している。

トマス杯は世界を、米、欧、亜、豪亜の四ゾーンに分け、各々のゾーン優勝国と選手権保持国を試合開催地に集め、インターゾーン戦をトーナメントでおこなって、新しいカップ保持国を決める仕組み。参加国は、どのゾーンに参加しても自由なので、最も強い四カ国が出場可能のシステムになっている。

一対抗戦についての選手は、四名以上六名以内、5単4複の9試合を二日間に分けておこなう。第一日は№1同士、№2同士の単と、№1同士、№2同士の複を行なう。第二日は、№1×№2、№2×№1、№3同士の3単及び№1×№2、№2×№1の複をおこなって勝ち点の多い国が勝ち進む。

日本は第三回から出場し、今回はアジアゾーンに参加した。

第10回インター・ゾーン組合せ



（5～6月にクアラルンプールで行なわれる）

スタンドの目



ト杯戦を観戦して

テクニックの細かな合理性

前ユ杯監督　今井　先

日程の組み直しなど、地元での御苦労は想像を絶するものであったと思います。ありがとうございました。

インドネシア選手のプレーを見ての私の感想は――。

1・クリヤーを打つときの打点は少し低い。

2・ドロップ・ショットの打点は精いっぱい高い。

3・オーバーヘッド・ストローク（特にスマッシュのための）ではバックスイングの際、両肩の線がネットに対して直角以上に深くなる。従って、フォアスイングの際、左手が右肩のあたりへ引き寄せられるのが、かえって合理性をもってくる。

4・シングルスでの後退は半身になってのステップで、自動車バックは見られない。

5・（ハルトノ）防禦基点からのスタートは両足同時に踏み切っている。

6・（ハルトノ）シングルスでヘアピンをネット際へ落しこんだ直後は、ショートサービスラインより、ネット寄りで待っている。

頭脳的なインドネシア

東大阪短大　柴山きよ子

日本の選手は相手の球を、無我夢中で返球していたのに、インドネシアの選手は、よく頭を使い無理なく打っていた。

動きが早くて常に前で打っていた。スマッシュされて、或いは追いつめられても奥へ奥へとハネ返して、反対に日本の選手が攻められていたと私は思う。

シングルスにしろダブルスにしろインドネシアの選手は、ヘアピンで決めた。

日本の選手はサービスのミスが目立った。

この試合を見て、私には大変考えさせられました。

× × ×

ハルトノにただ感嘆

前ユ杯選手　相沢マチ子

かつてハルトノは砂浜で連続三十分、縄飛びをするというウワサを聞いたことがあります。その時はまさか、という気持でしたが、今度ハルトノを実際に見て、それが事実であることを認識、あらためて敬服しました。

私が高二の時の全日本総合で来日した当時に比較して、その体力、プレーに一段とすごみが増していました。打つ瞬間に力むことがなく、流れるようなムダのない動きは、竹中さんとともに大いに参考になるわネ？といいあっていたところです。

それから、私達は新潟という地方にいるので、ニュース、刺激が少ないでしょう。「バドミントン界」をフルに利用して、プレーヤー同士の疑問点、相談などを交換して、地域差を補う努力をしたいと思うのですが…

× × ×

日本、精神面の充実が急務

東大阪高教諭　佐藤茂雄

インドネシアは若く、強く、そして層も厚かった。

技術的な面ではハルトノを除いては特に見るべきものはなかったが、一球一球に対する執念が日本より遙かにまさっていたように思う。

目の輝きといい、窮地に追いやられても決して無理をしようとせず、安全な逃げを行ない、また投げやりな〝一本ぐらいはミスをしてもよかろう〟という安易な妥協や、いささかの油断も見受けられなかった。

いうなれば日本は、この精神面で敗れたといえよう。

この精神面の充実は勿論、日常の厳しい練習の中から生れてくるものである事は言を待たない。

技術を支える精神面を充実させなければ、ト杯への道はまだまだ遠いのではないかと痛感したものである。

策がなかった日本の複

全英選手権者　竹中悦子

今度来日したメンバーの中では特にハルトノに注目していました。今迄、私達はユ杯大会などを通じて、ミナルニ、レトノ、ウタミなどの中から、インドネシアのプレーというものを漠然と感じていましたが、その何かがハルトノによって集約され、代表され解明できたように思います。

ダブルスは日本勢の勝利を信じていましたが、何等よいところなく敗れてしまったのはふがいなかったですネ。初日に相手に攪乱され、そのまま立直るすべもなく、二日目も同じようなペースで敗れたのは…。パートナーをうまく生かせなかったこと、途中で作戦を変えたりする何等かの方法があってよかったと思うのですが。その点、試合が決定したあとのダブルスではのびのびと良い面が出ていたみたい。

≪随 想≫ MR・マナラのこと

成功したH・R方式

大会名誉審判長 森 友 徳兵衛

ホームタウン・デシジョン（地元有利の判定）でもめた末、逆転劇で勝利を収めたインドネシア・チームを迎えてH・R（オナレリー・レフリー）を勤めた。

日本がいつもの通りに審判をすれば、問題が起らないはずだが、審判問題で神経をたかぶらせている相手に対しては、やはり、いくつかのこと、なかでもダブルH・R・システム（H・R補佐をおいた）の運営について、気にかかった。

もし、もめるとすると、主審以下の審判員についての交代要請ということの外はないと考えた。もう一つは余り考えられないことだが、試合没収に対する反抗であろう。この方式は敵地に乗り込むチームを、不公平審判から守ろうという、世界でも初めての試みであるが、必ずしも最上の方法とはいえない。

一番よいのは、ゾーン予選参加国を、開催国費用負担で一カ所に集め、中立国審判で行なうことだと思う。しかし、私としては現段階においては、もし成功すれば、日本チームが不公平で鳴る東南アジアへ行くときのよい判例となり、大きい目で見ると、将来、日本チームに有利なことと考え、また成功させたかった。

相棒のマナラ君（インドネシア）はよくルールを知った経験者で、熱心な人だった。結果として日本の各審判の正確公平について心からの敬意を示し、トラブルが起きなかったことを喜び、時を経ずして私を全面的に信頼してくれ、全て私の決定を支持した。

また彼は熱心に各種の点についてアドバイスし、常に補佐としての役に立とうと心がけ、決して〝対等の権利（交換公文）〟を主張することはなかった。

私としては補佐の肩書とはいえ、対等なので審判員へ注意した各点も伝え、また決定のときは〝もし君が同意すれば〟と必ずつけ加えた。試合前の打合せで彼が念を押した点は、サーブ時の同時フォルトでレットをとることと、オーバー・ネットがフォルトとなる限界点についてであった。

前者は〝同時〟とは極めて稀なことだ、と笑い話になり、後者は両者の見解が完全に一致した。これなどが彼を安心させ、日本の審判に信頼感を抱かせた原因だったと思う。

「山本と須田はすばらしい良い主審だ」ということばを残して、マナラ君と彼のチームは、ト杯奪還を秘めて南宴の空へ帰って行った。

◇ ◇ ◇ ◇

開催地の「反省五カ条」

ト杯戦は〝進歩と不調和〟

京都府協会理事長 上 原 正 士

常務理事の立場を離れ、開催地・京都府協会の責任者として報告します。いかなる大会が、いずれの地で開かれても、これを直接運営する主管協会に苦心苦労があるのは当然。これを書けばグチ、泣きごとになります。

以下〝反省五カ条〟を記し、少しでも今後の参考になれば幸いと思います。

1・準備期間が短かすぎたこと

開催予定地として地の利を生かすため京都市が選ばれたことは事実。しかし開催決定から、予定されたインドネシア×タイ戦（2月22日）まで正味十六日間は余りに短かすぎた。このため後援新聞社も得られず、PRも行きとどかなかった。招待者を除く一般入場者がきわめて少なかったのは、このせい。

広告関係も、関係メーカーの協力が90％となり、本来、大会を盛り上げる最も大きい力になるところの全国各支部協会の支持を得る時間もなかった。

2・意志疎通を欠いたこと

大会運営について、日本協会との間に、事前の協議が不充分だったため、運営の円滑さを欠いた面があった。

3・当事者間の意志統一不足

前項の延長で、選手団―日本協会―京都府協会の三者間に、統一されたムードが欠けていた。過去の大きい大会のとき見られたような、協力一致の気持ち。さらには、対インドネシア作戦などをも卒直に話し合える〝私〟の状態がなかった。これでは勝利は望めない。

4・経験の不足

京都府協会にト杯、ユ杯の選手役員、または国際公式戦の運営経験者がいなかった。これは第2項と関連がある。

5・大会主管受諾書一部改正のこと

支部協会が国際公式戦を開催する場合、日本協会との業務分担をできる限り詳細、明確にし分担業務の経費は、それぞれの会計から支払われること。また必ず総会に報告のこと。

あとがき 万博のテーマは、〝人類の進歩と調和〟ト杯決戦は残念ながら〝進歩と不調和〟だったようだ。

進歩とは、日本も優勝できる自信がつきはじめたこと、そして、一般観客が少なかったわりには、かなりの入場収入をあげられたこと。われわれが二十五年間、競技発展に投資してきた努力が実りはじめたこと。

今後は、もっと一般をひきつける努力が必要だ。不調和については、すでに述べたとおり。しかし解決できる問題です。

トライアングル（生徒・引卒・コーチ）レポート

〝おどろいたシャトルの微妙さ〟

……第6回 二階堂スポーツ教室……から

生徒

中学生のスポーツ振興が大きく叫ばれるようになってきた昨今――おりからバドミントンの名門、東京・二階堂高校で、中学女子を対象にした〝教室〟が開かれた。

これで六回目、これに参加した生徒、引卒者、指導に当たった大学生コーチ、三者のレポートを、ここにお届けする。

手記を通して共通するのは、「ものごとに熱中することの尊さがわかり、技術以外のなにものかを得た」ということだ。

全国各地で、この種の催しが盛んになることを切望したい。

～～～～～～～～～～

二階堂高校スポーツ教室・第六回バドミントン競技の部は一月二十五日（日）午前九時から同高体育館の六面のコートを中心に行なわれた。

都中体連加盟校（百二十二）その他に案内が送られ、申し込みは二十九校、三百六十二人を数えた。

前回までにくらべ、新しい試みは、実技指導のほか講義も行なったことである。これは中学校側からのリクエストによるもので、午前も午後も、上級と中級に分け、実技と講義をスイッチして実施された。

実技指導は二階堂高校の姉妹校である日本女子体育大学バドミントン部の功力コーチ、湯木主将はじめ十二人が各コートに二人ずつ割り当てられ、熱心な指導が続けられた。

参加校はつぎのとおり。

▼**板橋区**＝中台、板橋第三▼**江戸川区**＝小岩第三、松江第四、松江第五▼**大田区**＝大森第四▼**葛飾区**＝桜道▼**北区**＝赤羽台、神谷、堀船、女子聖学院▼**江東区**＝亀戸▼**品川区**＝荏原第六▼**杉並区**＝井草、高南、東田▼**練馬区**＝大泉学園、豊渓▼**文京区**＝お茶水女子大、茗台、文京第一、東洋女子▼**港区**＝高陵、三河台▼**目黒区**＝トキワ松学園▼**調布市**＝桐朋女子▼**三鷹市**＝三鷹第三▼**川崎市**＝桜本、渡田

（今井　先）

川崎市立桜本中学校
一年　川嶋富士子

私がバドミントン教室に参加して一番感じたのは、トレーニングがとてもきついということでした。私達の学校では、トレーニングといっても軽い柔軟体操ぐらいです。

でもここで見たトレーニングは、縄跳びをはじめバドミントン体操などいろいろあって、少しやっても息切れしてしまう程でした。私達は、クラブの時間にまねをしてやってみましたが、なかなかうまくできませんでした。これだけの運動をすれば、ずいぶん腕の力もつくし動きも鋭くなるのではないかと思います。

それに模範試合はとても迫力がありました。スマッシュなども素晴しいフォームとスピードで、それを受ける選手も、とてもうまいと思いました。世界的な選手の演技を目の前で見、本当に良い経験になりました。

先生のお話ですが、シャトルのことを聞いて驚きました。私達が今まで自由に使っていたシャトルも、夏と冬とで重さが違ったり、羽の先を少し切るとよく飛んだりすることです。その他、バドミントンの歴史などバドミントンに関した話を聞き、とてもためになりました。

私は、この教室で経験したことを参考にして、バドミントンの強い選手になりたいと思います。

何度でもやってほしい

北区神谷中学校
鈴木　恵美

二階堂の講習会をうけてまず最初に感じたことは、うける前に考えていたようなきびしいものではなかった。

というのは基礎打法やフットワークにしてもふだん学校でやっているのとちっとも変わらない、かえって学校でやっている方がきびしいとさえいえるだろう。

しかし、上級でうけたバドミントンの競技規則の講習においては「なるほど」と感心するような点がいくつもあった。たとえば国際バドミントン連盟のIBFという略称を覚えたのもその一つで、他にインとアウトについての説明を聞いて、自分が今までやっていたのがまちがいであることに気ずいた。

そして、最後に見た世界の女王といわれる湯木さんを含む、ダブルスの試合を見ただけでも講習会に来た価値があるように思えた。さすがに大学生ともなれば、インスタントで組んだ二人でも動きはばつぐんだと思った。またこんな講習会が開かれるとしたらぜひ参加したいと思います。

素振りで発見した自分の欠点

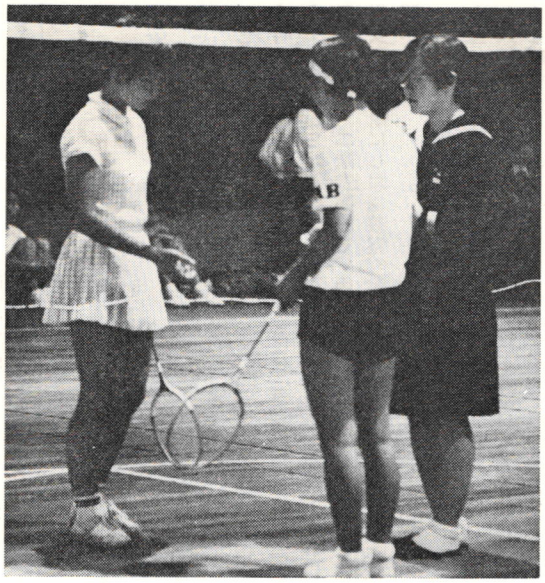
板橋第三中学校
二年　北田　裕子

参加して一番良かったのは、素振りで今まで自分では気づかない悪い点を発見できたことでした。

それから大学生の方の試合を見せていただいたことも、大変勉強になりました。

トレーニングは、二年生として、一年生を教えるのにとって

教師〝未来〟めざしあふれる意欲



▲中学生も，最近は大人なみの体格

女子聖学院教諭　佐野美代子

寒風の中、各学校から部員を代表してこの日を待ちかまえていた、明るい嬉しそうな表情の中学生グループが、広い体育館を、ものめずらしそうにのぞきながら、着替えに階段を上って行った。引卒も休日返上、生徒のために良い指導を受けさせたいと思う親心の、熱心な先生ばかりでした。

開会のご挨拶に、日頃おしゃべりの多い生徒達も、真剣な面もちで一言一言のがさずに聞きいっていること、それにもまして、参加者の多いのに驚きました。

上級は理論、中級は実技とに別れ、名選手達のうしろで未来の夢をたくし、準備運動と苦手なトレーニングもはりきってはじめました。日頃、男子の先生に指導をうけている者が多く、女子の指導者を与えられたこと、特に世界選手権の王座を獲得された指導者とあっては、幸運であるばかりでなく、自分達もこのような立派な先輩諸姉につながる可能性を感じたことでしょう。

一球一球真剣にシャトルを追う眼は本当に美しく感じられました。きびきびした諸姉の指導は各コート思い思いのカリキュラムで、人数が多くて困難な問題は毛頭感ぜられず、矢つぎばやに、無駄のない練習がつづけられました。

この指導もプレーも全く、今井先生のすばらしいご指導によるものと思いました。その上、理論の勉強も丁寧にご指導いただき、よかったと思います。

引卒者も我が子のめきめき上達していく姿にみとれ、時の経つのも忘れ、私どもも多くを学ぶことが出来、良い刺激を与えられたことを感謝し、このような機会が多くの生徒にも与えられることを願いました。

グループの人数が少し多すぎたような気がしました。もっと人数が少なかったら、もっと身についたのではないかと残念に思いました。

今回は一回だけだったので、この次にやる時は、何回か続けてやってほしいと思います。

〝熱中〟することの素晴しさ

練馬区立中台中学校教諭　田原　啓子

ラケットを持った子、そしてそれを見学する子、彼女らの目は真剣そのもの。ふだん、学校での練習ではきっとこれ程までにはやっていないだろうと思われるくらいだった。指導者である大学生、高校生の注意をずなおに聞き、いわれた通りにやろうと懸命になっている。

みんなこの講習会には、もっと上手になろうとか、練習の仕方を学ぼう等、大なり小なりの目的を持って参加したであろうが、それはともかく、たとえこの時に技術的に何かを得ることがなかったにしても、いつもとは違う人に教えられ、あれほどまでにバドミントンに真剣になりえたということ、それだけで講習会に出席した大きな意義があったろうと思われる。

私のようにバドミントンに関し全く無知な者でも、その熱中している姿を見るとすばらしいと思わざるを得なかった。今井先生のユーモアのある講義で大いに笑っても、昼食時のモデル・トレーニングの見学、さらに最後の模範試合にいたっては、プレーヤーよりも真剣な目つきで目を見張る。

私にとってこの一日、バドミントンについて学ぶことよりも人間が物事に熱中するすばらしさを再確認させられたことの方が大きな収穫であった。

胸打つ真剣な受講態度

川崎市立渡田中学校教諭　須田兼三郎

一月二十五（日）二階堂高校松原体育館で数多の名選手を育てられた、今井先生のすばらしい企画のもとに行われました。

川崎地区としては今回初めて二校参加しました。とかく中学校では見落してしまいがちな理論について、午前、午後、各一回、およそ三時間にわたっての学習。湯木をはじめとして世界バドミントン界に名を連ねる名選手（日本女子体大）の実技指導、参加した女子中学生三〇〇余名の一言一句、一挙手一投足をも聞きもらさず、また見のがすまいとする真剣な受講態度、誠に有意義な一日でした。

多すぎる生徒に嬉しい悲鳴

もっと懇切丁寧に教えたい

コーチ

日女体大　三年　池尻千恵子

バドミントン教室も今回で六回目、回を重ねるごとに参加者がふえているのは嬉しいことだが、その反面、コートの数は参加者の多少にかかわらず六面。したがって今回のように、三百人もの参加者でも六面で行なわなければならない点など考えると、手ばなしでは喜べないような気がする。

今回の場合、実技時間が前回までの半分だったため、数分間打ってすぐ交代、待っていることが多く、体が冷えきってしまったようす。

もっと待ち時間の良い利用法を考えておけば、コートに入ってシャトルを打つ時間は短くても、参加者にある程度の満足感を味わってもらえたのではないかと思われる。

日女体大　三年　湯木　博江

バドミントン教室を開く度に講師としてお手伝いさせて頂きます。しかし中学生を指導しているのか、私の方が中学生に勉強させられているのか、やっているうちにわからなくなってきます。

そのどちらもよりよく結びつき、指導ができるようになれば、教師となってもやっていけるのではないかと思います。

今回の教室で感じたのは、参加人員の多いことです。

それでも、たった二～三分間の打ち合いにも、全力を出して打ち合ってくれ、少しでも正しいバドミントンを覚えて、学校に帰り部員に教えるという気持ちをもってくれればうれしいと思います。

しかし、多くの人の中には不満だった者もいたと思います。短時間内でも満足させるようにするには、そして、もっと他にやり方があったのではないだろうか、と反省する材料は、教室が終った後から浮かんでまいります。

次回の教室には、今回、反省した事をプラスにしてお手伝いさせて頂きたいと思います。

日女体大　三年　大塚　芳子

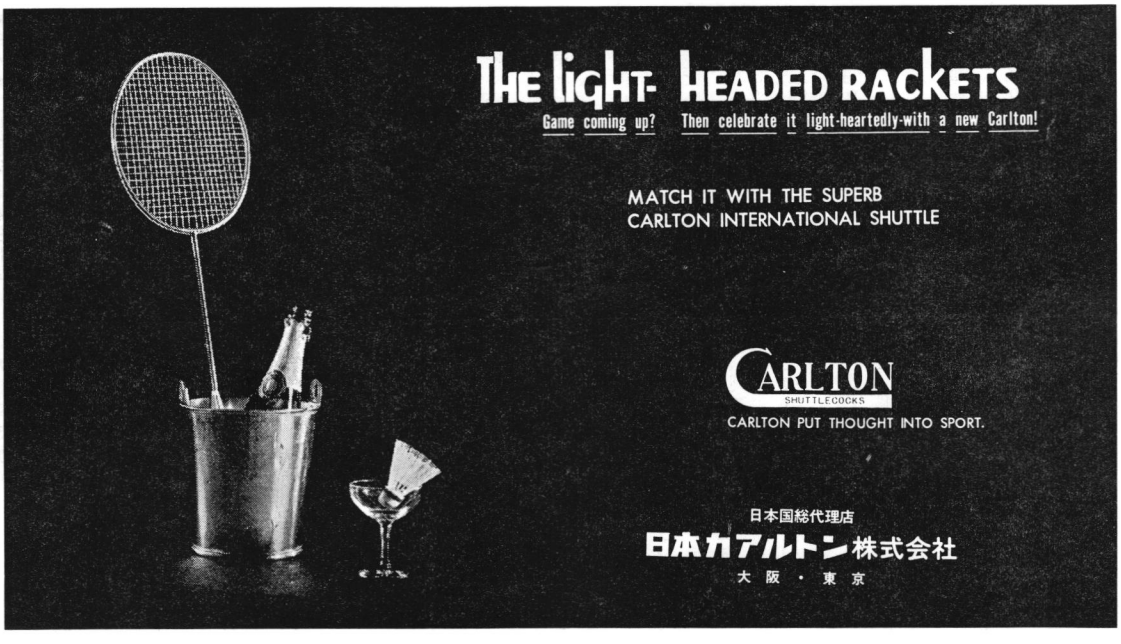
数多くの参加者を迎えてのバドミントン教室。そのお手伝いを数回させていただき、回を重ねるごとに、改めて教えることのむずかしさを感じさせられます。

この中から、より多くのものを吸収しようと意気盛んな中学生を相手に、コートの中を四方八方かけめぐりましたが、一様な指導は出来ず、不満を抱いた人も、少なくなかったと思います。

私自身にとっても、体操の号令、生徒に対する言葉使い、内容の組み合せなど、細かいこと一つ一つが、早々に、五月からの教育実習に、取り入れられるのではと思って一生懸命やりましたが、今考えれば、ああもこうもすれば良かった、と考えさせられることばかりです。

しかし、この短い時間の中からも、一人一人が、何らかの形で、バドミントンに対して新しい認識をもたれたのではないでしょうか。

そして、今まで以上の興味と関心をもち、日頃の練習に励んで下されば、素晴らしいことと思います。



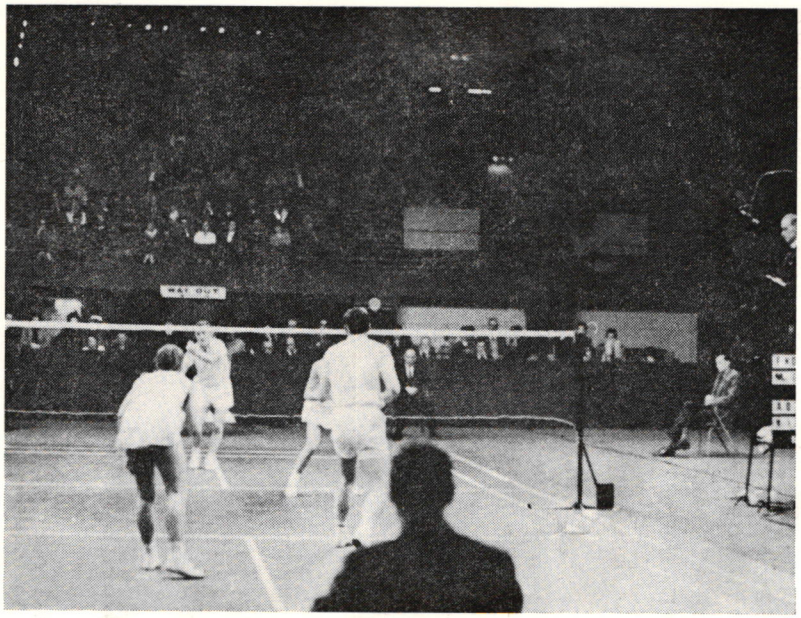
速報

欧米遠征選手団だより

日本2連勝の偉業

竹中が全英〝女王〟に

女単 ニールセンをストレート



◀昨年の全英選手権から

欧米遠征の日本代表選手たちは、期待どおり、大きな成果をあげている。

遠征の最も大きなヤマであった全英選手権（非公式の世界選手権）では、負傷のため出場できなかった湯木に代わり、新鋭竹中悦子（新潟青陵短大）が、女子シングルスに優勝、日本は二年連続して世界の〝女王の座〟を確保した。

小島は全デンマーク制す 男子単

また男子ではNo.1の小島一平（ヨネヤマ・ラケット）が、全デンマーク選手権でコプス（デンマーク）をくだし優勝した。しかし、全英では決勝に進みながら、ト杯戦で苦杯を喫した強敵ハルトノ（インドネシア）に、またも接戦のすえ敗れたのは惜しまれる。

◆デンマーク選手権最終日（3月12日、コペンハーゲン）

▼男子シングルス決勝

小島（ヨネヤマ）2(15—10)0（デンマーク）コプス

▼女子シングルス決勝

竹中（ツェドベリ（スウェーデン））2(11—2)0（新潟青陵短大）

▼女子ダブルス決勝

相沢竹中（新潟青陵短大）2(15—9)1(12—17)1 天野高木（東海女短大教）

▼男子ダブルス決勝

コプスポーチ（デンマーク）2(15—2)1(10—17—15)1 プルカルソー（デンマーク）

◆全英選手権大会（3月18～21日、ロンドン）

▼男子シングルス 二回戦

本間（中大）2(15—3)0（英）ホワイト

小島（ヨネヤマ）2(15—12)0（西独）ポチョフ

▼同三回戦

本間 2(15—9)0（デンマーク）ボルヒ

小島 2(15—5)0（英）エディ

▼同準々決勝

小島 2(15—9)1(15—11)1（インドネシア）ダルマジ

ブリ（デンマーク）2(15—4)0 本間

▼同準決勝

ハルトノ（インドネシア）2(17—14)0 小島

▼女子シングルス 二回戦

高木 2(11—2)0（英）パーマー

竹中 2(11—7)1(7—11)1 ツェドベリ（スウェーデン）

相沢高木（新潟青陵短大）2(12—2)0（オランダ）ノーエル

▼同三回戦

高木 2(11—0)0（オランダ）ムーレン

竹中 2(11—4)0 ベルクソン（デンマーク）

▼同準々決勝

ベック（英）2(11—4)0 天野

バリナガ（米）2(11—7)0 相沢

▼同準決勝

ニールセン（英）2(11—6)1(3—8)0 高木

竹中 2(11—4)0 ボグソール（英）

▼決勝

竹中 2(11—3)0 ニールセン（英）

▼女子ダブルス準決勝

ボクソール、ウェトナル（英）2(15—12)0 竹中相沢

湯木、高木両選手が負傷

3月28日急ぎ帰国

不測の事故?!

湯木、高木の両選手が、遠征中に、あいついで負傷するという、不幸な出来ごとがあり、両選手は二十八日、ひと足さきに帰国した。

湯木選手は、別項の高木選手からの便りにあるとおり、三月十日、全デンマーク選手権で女子シングルスのベスト4入りを決めたあと、ワヘロー（西独）と組んでダブルス準々決勝のプレー中、左のアキレスけんを切った。

ただちに入院、手術を受けたが、待望の全英選手権の王座防衛は断念しなければならなくなった。そして、日本協会からの指示により、帰国の準備を進めていたところ、湯木さんの世話をしていた、選手団のキャプテン格、高木選手が十九日、今度は全英選手権女子シングルス準々決勝でニールセン（英）と試合中、左足をねんざ、棄権しなければならなくなった。

このため、両選手は、三月二十八日夕、日航機で帰国した。

アキレスけんの切断はよくあることだが、湯木選手の今シーズンの活躍は、ちょっと無理なようだ。両選手が一日も早く回復するよう、祈ってやまない。

〝力強くなった外国女子〟

高木選手からの便り

高木紀子選手からの手紙（3月14日、アムステルダム発）

取り急ぎ申し上げます。湯木さんの思いがけぬアキレス腱切断という報にさぞびっくりなされたことと存じます。本当にご心配おかけして、すみませんでした。

幸い日本大使館はじめ現地の日本人の方々が大変ご支援下さいましたので無事、手術も済み、25日の退院の日を待ち望んでいます。つくづく同国人のありがたみがわかりました。

今更、悔んでみても仕方ございませんが、本人は勿論のこと日本バドミントン界にとって大きな損失、私が切っていたならばとさえ思われます。本当に残念でございます。

なお、昨日デンマーク大会が終了いたしました。私自身、あの件で一寸、動揺させられましたが、全員頑張ってくれました。男子シングルスは小島さんの活躍で優勝、素晴らしいプレーでした。

本間さんはベスト8、スベン・プリに惜敗いたしましたが初めての試合にしては良い出来だったように思われます。女子シングルスは竹中さんがスウェーデンのスエドベルグとやりましたが、キャリアの差が出て、本来の実力を発揮できないままに負けてしまったようです。

女子ダブルスは予想通り日本同士の決勝でしたが、両方とも調子が出ず、面白くない試合だったのが残念です。

男子ダブルスはコプス・ボーチ組に負けベスト8です。今回外国選手を見て感じたことは、女子選手が力強くなり、特にバックのドライブは素晴らしいものです。男子は余り変わらず、やはり東南アジアの選手の方が強いようです。

湯木さん退院のことがあるので私は予定を変更、ロンドン大会後、またコペンに戻ります。どうぞ湯木さんを元気づけてあげて下さい。

全英大会に全員で頑張りたいと思います。湯木さんの分も…またお便り申し上げます。

アムステルダムにて　高木　紀子

北欧女性は〝いつ見ても美しい〟

選手団から日本学連一同への寄せ書き（3月11日発信、コペンハーゲンで）

▼北欧の女性の美しさは、いつ来ても変わりません。一人でも連れて帰りたい気持ちなのですが……では又。頑張ります。（小島一平）

▼日本学生の根性を見せてきます。（本間順次）

▼色々と出発前はありがとうございました。雪の歓迎を受けてコペン入りしました。（天野博江）

▼長期遠征、ヨーロッパは古い伝統の中に与えてくれるものが大きく、勉強になります。（竹中悦子）

▼初めてのヨーロッパ遠征で見るもの聞くものすべてが良い勉強になります。全力で戦います。（相沢マチ子）

▼お蔭様で予定どおり進んでおります。デンマーク大会には10カ国ぐらい、参加がありました。（高木紀子）

▼出発の見送り有難うございました。学連さんも大変ですね。私たちも大いにハッスルするつもりです。（湯木博江）



◀寄せ書きのカラー絵はがき

技術講座

百万人のバドミントン上達法

連載

＜強かったハルトノ選手＞ト杯に学ぶ
すぐれた予見と柔軟な体質と

幼少年編 ⑦

伊藤基記

小中学生諸君、暖かくなりましたね。私は二月二十五、六日、京都でト杯のアジア決勝を観戦させてもらいました。

本当に全く惜しいところで日本はインドネシアの軍門に降りました。日本の選手は立派なプレーをしました。今迄の練習が如何に激しいものであったかを物語る戦い振りでした。

ところでそのインドネシア・チームの強さのことですが、その主役は何といってもハルトノ君でした。シングルスにもダブルスにも大活躍をしたのです。

かつての全英選手権のファイナリスト（優勝戦まで進出して第2位になった選手）秋山君も近年、日本ナンバー・ワンとして独走している小島君も、単複とも、このハルトノ君の前に屈してしまったのですから、その強さがわかろうというものです。

このハルトノ君さえインドネシア・チームの中にいなかったら、恐らく日本チームは楽勝したにちがいありません。

日本が敗れたことはとてもくやしいのですが、しかしハルトノ君の素晴らしい腕前には文句なしに拍手を送りました。過去二年間、全英選手権大会（事実上の世界個人選手権大会）にシングルス優勝者として世界のトップに位する選手ですから、強いのは当り前といえば当り前ですが、どういうところが強かったのか、それが少年諸君とどんな関係があるのか、少しお話ししておきましょう。

(1) すぐれた予見

アンティシイペーションといわれています。相手からどんなフライトがどこに飛来するかを予知して素早くそれに応ずる能力と考えてよいでしょう。この予見の力がハルトノ君の場合は全くほれぼれするほど素晴らしいのです。生れつきか、トレーニングの結果か、まるで猫が獲物に襲いかかるように、秋山君や小島君がどこに打っても、それに吸い寄せられるように追いついて、バードにとびかかるのです。恐らく小島君や秋山君には、ハルトノ選手が大きくコート一杯に拡がって、どこにバードを送ってよいかわからないという、やっかいな相手であったに違いありません。この能力は激しい訓練というよりも、非常にすぐれた素質が、機会に恵まれて磨きに磨かれたという感じでした。

(2) 柔軟で弾力に富んだ体質

すらりとして、無駄な筋肉が少しもついていないハルトノ君の体つきは印象的でした。鍛えぬかれたという筋肉のもりあがりは腕にも脚にも見られません。全身これバネという感じ。トレーニングで鍛えぬかれたのでしょうが、外見上はコートの上でプレーをつづけているうちに、バドミントンに最も適した身体が自然にでき上ったのだという印象を与えました。

おそらく少年時代、戸外で色々の遊びをして、のびのび育てられたにちがいなく、ラケットも相当に早く握ったのだろうと思われました。

ストロークは全体としてリキんだ感じが少しもなく、のびのびと牛若丸のようにコートの中をとび回り、バードに吸いよせられるように、スーっと近づいたかと思うと、豹のようにバードに躍りかかって、バシッ、バシッときめるあたりは見事というほかありません。いつの間にか、ネットから顔がでるほど前進していて、ネットに乗ってころがるようなヘアピン・ショットをいれるかと思えば、飛鳥のようにとびさがってバードにとびついてゆくのです。全体として、軽々と打っている感じですが、フィルムに映してみますと、ラケットを掌でにぎりしめているのでなくて、指でにぎっている感じで、全身をしなやかなムチのように使い、跳躍と打撃が素晴らしいハーモニーをかなでているのがよくわかります。

私は今の日本の少年諸君の中に、ハルトノ君のような立派な素質の者が沢山いると信じています。キャッチ・ボールがうまくて、とぶ力、走る力に自信がある少年なら、心掛けしだいでハルトノ君級の名手になれると確信しています。ラケットは握っても、決して体育館の中にとじこもらないで、戸外の恵まれた自然の中で、思う存分とび回り、走り回るような遊びを忘れないで雑草のように根強く、すくすくと育って下さい。

中高校編 ⑦

サービスの基本的学び方

〝安全確実〟から〝積極的〟へ

遠井稔男

バドミントンはサービス権のある時だけが得点にむすびつくのであるから、サービスの失敗は本当に重大な権利放棄を意味するものである。

したがって、サービスは確実性、安全性を第一に基礎の練習をおこなわなければならない。しかし、技術の向上にともなって、サービスによるフェイント性、ポイント性、サービス・エースは勿論、応用、実戦技の練習を多くしなければならない。

ラリーの先手をとるためには、ある程度のミスの危険をおかしても相手の虚をつくとか、ネットすれすれにきわどいコーナー・ラインをねらうことができるように、意識を持って打たなくてはいけない。

× × ×

ショート・サービスはバードがネットすれすれに越えて相手コートのショート・サービス・ライン内側附近に入るのがよい。

勿論、左右にふりわけて、相手が動かねばできるだけとどきにくいところに入れるのがよいが、逆にバードがネットを越えて上昇したり、越す時、ネットよりも高かったのでは、相手に出られてたたかれてしまうので慎重を期して真剣に練習しなければならない。

サービス・ポジションはショート・サービス・ラインから30㌢ぐらい後にとるのが一般的に多いが、身長やリーチの長・短、その他テクニックによっても異なってくる。

ネットに近ずけば、ネットの高さが気になるし、技術的にも難しくなる。またネットから離れると、相手に時間的な余裕を与えるし、ネットにラッシュされて打たれてしまう。

サービスの技術開発はここにあるが、ネット寄りのサービス・コートからできるだけネットの近くで高い位置に打点を求め、ネットすれすれにショート・サービス・コーナーに入れるがよい。

勿論、身長が高いほど、リーチが長いほど、サービス確率が高く有利であることは明らかである。

しかし、身体的条件に劣る場合、より一層その活路をサービスに見出して練習に励んだ結果、高木・天野選手やレトノ選手（インドネシア）などに見られる素晴らしいサービスが生まれるのである。私はその重要性の認識を強く訴えるものである。

背が低くても活路はある

ブの相違、特質

- ハイ・ロング・サーブ、ショート・サーブ、ドライブ・サーブなどの方法とその使い方
- サーブの正しいフォームを身につける
- サーブのスイングの練習
- ショート・サーブとロング・サーブの練習①天井からつるした糸にシャトルを腰の高さにむすび、ネットの高さにライン・テープを壁にはり、手前198㌢のショート・サービス・ラインから壁に向かってショート・サーブの練習をする

サーブ練習のポイント

【中・高校初心者】

- 競技規則をよく理解する
- 特にオーバーウェスト（腰より高い場合）オーバーハンド（手より高い場合）フットフォルト（足の状態）ネットの高さ（152・4㌢）サービス・コートなどについて
- 具体的なサーブ技術を示範し、十分、見学し理解する。
- ダブルスとシングルスのサーブの相違、特質
- ハイ・ロング・サーブ、ショート・サーブ、ドライブ・サーブなどの方法とその使い方
- サーブの正しいフォームを身につける
- サーブのスイングの練習
- ショート・サーブとロング・サーブの練習①天井からつるした糸にシャトルを腰の高さにむすび、ネットの高さにライン・テープを壁にはり、手前198㌢のショート・サービス・ラインから壁に向かってショート・サーブの練習をする
- ②コートのロング・サービス・ラインの真上6㍍の所にバーを作り、このバーの上を通過させ、センター・アーレーに落下するように、ロング・サーブの練習をする（このバーは中央から上達するにつれて後方へ移動する）

【中・上級者】

- 相手側コートにレシーバーを入れて、自分のサーブの確実性を試しながら打つこと
- 記録をつける。ショート、ロング・サーブおのおの50本実施、統計をとる
- ロング・サーブはセンターライン・アーレーに行なう
- ショート・サーブはネットすれすれに越してショートTラインにはいるようにする
- サーブ・ポイント率は20パーセントを目標にする
- サーブで先手をとり、攻撃的にもって行く
- 変化サーブをおりまぜても失敗しないだけ練習をかさねる
- 同じコースへ、同じ種類のサーブを、連続送れるような練習をする
- 実戦の場合を常に念頭においてサービスを重視して行なう

上級編 ⑥

《続・サービスの重要性》

満点のロング・ハイ・サービスとは

毛利清志

今回は、シングルスにおける各種サービスの中で「ロング・ハイ・サービス」がもつ意味合いを考えながら、そのサービスがより効果的であるための条件及び、自分のサービスを如何にコントロールし、自信をつけるべきかなどについてのべよう。

このサービスで最も大切なことは、その名の通り、バック・バウンダリー・ライン上に垂直に落ちるように打ち上げることである。さらに、欲をいえばレシーバーに「アウトではないか？」と一瞬でも迷いをおこさせるようなサービスを送りこむことである。こんなサービスに成功すれば、不利な条件（下から上向きに上げる）で出発したサービスも相手に脅威？をさえ与えることができるのである。

即ち、レシーバーが最大の効果的リターンを意図し、最良の打球点――大方のプレーヤーは自分の身体の斜前上方がフライトの種類とコースを最も変化させ易い打球点といえる――でそのサービスを捌こうと思えば、後足は勿論身体の半ば以上をコートから外に出す程にネットから後退せねばならないわけである。

まして一瞬でも「アウトではなかろうか？」と迷いながらなされたレシーブが、いかに甘いものになるかは相像にかたくない。即ち、自分のサービスがまずいために、レシーブ一発でノータッチを取られたり、逆にサーバー余りにも美事なサービスに威圧感を抱いて、不安定なリターンをしたとたんに、うまくしてやられた!!というような体験は、大方の読者が少なからず持っているはずである。だからサーバーは

①相手コートに高く、深く打ち上げて充分な時間をかせぎ、完全な体勢を整える

②次になるべくネットから遠い位置でリターンさせ、相手のフライトとコースを予測するなどという一般的な考え方のほかに、もっと強気で

①できるだけ高く上げて、レシーバーの目がサーバーからはなれる時間をなるべく長くさせ、いらいらした気持に追いこんでやろう

②できるだけ「アウトではないか？」とレシーバーを迷わせあわててリターンさせることによってフライトの種類をなるべく減らしめ、そのコースをも予測して、それを待ち受け、すかさず攻撃してやろうぐらいの意気ごみでサービスをするべきである。

さて、以上の①と②が完全にマスターできれば70点はつけられる。残りの30点は三つに分けて10点ずつとしよう。

③自分の得意とする場所に打ちこむ自信があること。（これは、その場所からのリターンに対してならば、どんなフライトがどんなコースに飛んできてもその処理に自信があるという意味であり、定石としてはそこにサービスを送りこめばよい）

④相手の弱点をなるべく早く見出して、その場所を狙ってサービスを打ちこむ自信があること。（これは、レシーバーが特定の場所からのリターンを苦手としていて、そこからは極めて限られたフライトが、処理しやすいコースにしか飛んでこないということが判れば、サーバーとしては徹頭徹尾その穴を狙いたいわけであり、そのコントロールが要求されるのである）

⑤最後には、自分のサービスが意図したコースに、しかもコートいっぱいに飛んでいるか否かについて、常に留意することである。（このうち、コースと高さについては、だれでもよく注意しているが、長さについてはともすれば不注意になりやすい。それは、何をもって判断するか、ということがつかみにくいからである。

これについて、筆者は次のように判断することにしている。即ち、レシーバーが、最も多彩なショットができる最良の打球点〝身体の斜前上方〟を求めてその位置に移動して完全なレシーブ体勢を整えたときの両足がとこにあるかを見ればよい。

リターン直前の両足が、前後に開かれているなら、その間にバック・バウンダリー・ラインがあって前足の方が同ラインに近い位、両足が同ラインに対して、平行に近いなら、両足とも同ライン外に出ている位ならば、サービスはほとんどコートいっぱいに飛んでいるのである。これは、ロング・ハイ・サービスであるが故に、相手の足とラインとの関係を盗み観る時間的余裕があるわけである）

これでロング・ハイ・サービスは100点満点に完成されたことになる。他のサービスで相当に重要視される「打点、スピード、モーション、間合をとる、サービス直後の動作」などについては、それ程神経質に考える必要はない。



◆職場訪問◆

≪東京・航空技研≫

〝人間関係〟にもひと役

コートは送風機械室

航空技研、正確にいうと、総理府科学技術庁・航空宇宙技術研究所は、都心から国道20号線を車で西に約40分、調布市の北端、三鷹市との境にある。

日本の航空・宇宙開発の中枢として科学技術庁のキモ入りで設置されたこの施設は、種ヶ島の宇宙センターとともに時代の最先端をゆく、ロケット及び人工衛生の開発、航空機の構造、空気力学的性能、エンジン、計測器、自動着陸制禦装置、新型航空機など、あらゆる部門にわたって開発、基礎研究を行なっており、日本の未来をも背負う存在といえる。

研究所内には約10のスポーツ関係サークルがある。バドミントン・クラブは昭和三十四年六月に創部された。当時を振り返ってバドミントン部々長の鈴木邦男（三全）さんは「発足当初は15名程度の部員で、風の吹く戸外での練習は競技というより、むしろレクリエーションに近かった。なにしろ経験者がいるわけでもなく、ほとんどが入所してから始めた者ばかり、指導者がなくて自分達の力だけ、暗中模索の状態でした」と語る。

丁度この時、航空技術の隣りにある運輸省・船舶技術研究所に森政彦氏というバドミントンのオーソリティが在勤していることを知り、氏を招いて指導を仰いだことも再三あった。現在は、女子8名を含む約30名の部員。数的にも、キャリアの面でも、数あるスポーツ・サークルの中で最も実績のあるクラブと認められている。

部員の平均年令は25～26才、上は47才、下は19才で、ラケットを持ってから2年もたつと、どうやら一人前のプレーヤーに成長する。部員の募集には、新入所員歓迎会の時に一人一枚のポスターを責任をもって作成しまた実際にシャトルを打ち合ったりしてデモンストレーションも、と非常に活発。

シーズンオフには、部内対抗を設け部員に励みを持たせているが、昨年、PRを目的として所内対抗を企画したところ、全所員の五分の一にあたる80名の参加があり、その好反響に部員一同多いに気を大きくした。

練習時間はほとんど毎日、昼休みの一時間。練習場所は体育館がないため送風機械室が利用されている。高さが30尺はあろうかと思われるこの建物、でっかいタービンが二基、ドカンと居坐り、その片スミに二面のコートが造ってある。床はもちろんコンクリート、思いきったプレーが出来ないのが悩み。試合などで木のフロアに出ると生き返ったようになるという。

部費は月額一人百五十円、その他に毎日練習に出るたびに十円づつ払うことになっており、だいたい月に三、四百円の出費になるという。

クラブ活動に参加して何が得られたか、という質問に対し、クラブ責任者の楯さんは「広い所内のため、とかく疎遠になりがちな所員相互の交流を計ること、上司との人間関係を円滑にやっていくのにはスポーツを通じてお互いの真の姿を知るのが一番」といっている。

また今後のクラブの方針としては「実力の向上はもちろん必要だと思うが、学校などとは異なり、レジャー的要素を取り入れて、楽しさと厳しさを両立させていきたい」と鈴木部長はつけ加えた。

そのために、合宿を行なったり、山登り、ハイキングに出掛けたり、クリスマス・パーティーを開いたり、レクリエーションも豊富に実施している。

悩みは「まず体育館がないということ、それに新しく加入した部員達を指導するために、コーチの必要性を痛切に感じる」（鈴木氏）とのこと。

「できれば近いうちに実業団連盟に加入し、自分達の力がどの程度、通用するか試してみたい」と部員諸氏は目を輝かす。

ちなみに昨年度の主要戦績を連記してみると。――

▼三多摩事業所別対抗戦＝1位航空技研A ▼総理府大会＝一般男女壮年男子で航空技研が独占優勝 ▼全官公庁大会＝1位航空技研メンバーを中心とした総理府 ▼東京都地区対抗戦＝1位航空技研メンバーを中心とした調布市 ▼都下市町村総合体育大会＝男女ともに航空技研メンバーを中心とした調布市が優勝 ▼本誌第5号で紹介した第18回全国青年大会では、東京都代表となった航空技研チームが見事栄冠を勝ち得た。

（日本協会広報委員・秦浩）

特別手記

全国高校選抜（第7号既報）に参加して

私たちは，なにを学んだか

東京・桐朋女子高　鎌田美枝子，長谷川京子

●●はじめに●●

全国高校生選抜合宿を無事におえた。はじめは恐怖感で一杯だったのが、四日間生活してこの恐怖感が変わった。みんなともう一度生活したくなったからだ。

この合宿で学んだことは、技術はもちろんのこと、その他、友だちの尊さを知ったように思う。若い力が一つになってぶつかったあの合宿の雰囲気を、いま一度味わいたい。

この合宿では、苦しい思い出楽しい思い出すべてがあった。あたたかい雰囲気の中でやれたことはうれしいことである。

確か、遠井先生もおっしゃっておられたように思うが『人間には情熱と愛情があれば、不可能なものはない。』これはとても大事なことだと思う。これがこの合宿で得られたような気がする。

ここで諸先生方の良きご指導のもとに、無事合宿を終えられたことを感謝致します。

× × ×

〝持久力トレ〟は死の苦しみ

第一日　先き立ったシゴキへの恐怖

〈合宿第一日目〉合宿に参加するには心の構えが必要である。京浜地区代表として頑張らなければ、と思いつつ、頭の中に浮んでくるのはシゴキにシゴかれている姿である。

今の私たちには、恐怖感と、はじめての選抜合宿にのぞむ興味とがまざりあっている。この複雑な気持ちの中で、四日間という時間を通していかなければならない。果して過していけるだろうか。今から合宿は始まっている。四日間を頑張り通さなければ……。

合宿第一日目から、遠井先生の基礎体力トレーニングだなんてしあわせだなあ。（心の中では恐怖感に満ちていて大変!!）相像していたとおり、きついトレーニングだった。その中でも持久性のトレーニングは〝この世にいられなくなるのでは〟と思ったほど、すごい?!ものだった。

このトレーニングが終ったときは、本当にホッとした。だって何といっても、生きていられたんだもの。わずか5分間の休憩だったが、生き返った気がした。

基本練習も普段、学校でやったことのないものなので、練習の方法を知ることができた。

やっと第一日目の練習がおわった。まだ始まったばかりなのに疲れ気味!!　夜のミーティングでは、ユ杯のフィルムをみることができた。上手な人のプレーを見ることが大事だとわかった。

〈合宿第二日目〉朝のつどいがあって、気分爽快。練習すると全部が新しいものばかりに思えてくる。基本の大事さが身にしみてわかった。基礎体力がなければどうすることもできないような気がする。午前中の練習は基本的なものばかりだったが一つ一つ、少しずつでも身についたように思う。

午後は大学選手との試合があった。キャリアの差というものを感じた。しかし上手な方々に相手をしていただけるなんて、機会のないこと。大いに利用すべきだと思った。（もちろん良い意味で）

寝るだけが楽しみ　第二日

夜は昨日同様、ユ杯のビデオテープを見た。フィルムとはちがい、ナマの迫力があるように思った。みんな熱心に見入っている姿、やはり高校生の良さかなアと痛感した。だんだん疲れがたまってきたようだ。寝るだけが楽しみとなる。

〈合宿第三日目〉朝のつどいのあと、明治神宮へ参拝に行く。しかしマラソンで、朝早いので気持ちが良い。無事に合宿がおわるようたのんだ。緑が多くてよかった。

午前も午後も大学選手との試合。湯木選手と始めて試合をすることができた。光栄のいたりである。しかし湯木選手をまともに見ることはできない。なぜだろう。緊張、緊張、また緊張の時間であった。午後は途中で伊藤先生による体力測定。おもしろくできた。

夜のミーティングでは、この合宿に参加しての感想および、ユ杯のフィルムをみて思ったこと、そして疑問などについて話し合いの場をもった。

できた〝永遠〟の友だち

最終日「あと一日やりたい」

◉合宿に参加して思ったこと

◇友だちがたくさんできた
◇いろいろな先生方とできたので勉強になった
◇トレーニング方法がわかった
◇体力がついたように思う
◇多くの人とやったので自分の弱点がわかった
◇他の県の人のプレーが見られてよかった
◇スマッシュ・レシーブのやり方を覚えた

◉ユーバー杯フィルムおよびビデオテープを見ての感想

◇攻撃されていても、きり返して攻撃することができる
◇横の動きがない
◇サーヴィスが上手である
◇サーブ・レシーブの処理がうまい
◇バックストロークで思うように打てる
◇ダブルスの前衛がうまい
◇動きに無駄がない

◉技術その他に関する質問

◇手首を強くする運動
◇練習時間が短かいのでどうしたらいいか
◇試合のとき、あと一本でおわりだというのにその一本がどうしてもとれない。この時の心理状態はどうか
◇試合の前の緊張感をほぐすにはどうするか
◇ハイバックのタイミングがわからない
◇中学生と高校生のプレーのちがいはどうか

ここで先生方の言葉を書き残しておきたい。

伊藤先生――『練習のときは自分が一番下手だと思え。試合のときは自分が一番上手だと思うこと』

法政大学の池田選手――『基本を正確に、素直なプレーヤーになれ！』

合宿第四日目。いよいよ合宿も最後、参加選手同士の試合を行なった。この合宿で学んだものを出し切って戦っている姿。バドミントンというスポーツを通じて知り合った若者たちは、いつまでも永遠の友となるだろう。

この合宿の解散は、あまりにもあっけなかった。四日間が、あまりにも早くおわってしまったような気がする。あと一日でもいいからみんなといたい！と思う気持ちで一杯だ。

HATACHI
SHUTTLECOCKS
日本バドミントン協会公認
日本一の生産量を誇る
羽立工業株式会社

■本　社
静岡県浜名郡湖西町新所3 郵便番号・431-04
TEL　湖西〈05359〉6－1501　(代表)
■東京営業所
東京都台東区蔵前3-10-7 郵便番号・111
TEL　東京〈03〉861－2777　(代表)



≪提言シリーズ≫

第3回

海外代表に保険もかけぬとは

傷害補償対策を急げ

‖湯木のアキレス切断におもう‖

欧米遠征の一人、湯木博江選手（日女体大）が「試合中にアキレス腱を切り、全英選手権を前に、タイトル防衛が不可能になった」という外電に接したとき、アッとおどろいたのは、私だけではあるまい。

だが、私が、本当におどろいたのは、そのつぎだった。

「傷害保険は？」反射的に頭にひらめいた私は、すぐ日本協会関係者に聞いた。「いや、かけてない」一同は、なんともいえず、しょっぱい顔をした。

なんたることか！　私はガク然とした。

×　×　×

二月の終わりから三月始めにかけて、スポーツ界では、二つの〝傷害事故〟が話題をにぎわした。新聞で読んだ読者も多いことだろうが、簡単に紹介しよう。

一つはリュージュ競技世界選手権代表・味呑富士広君の重傷。同選手は昨年十二月、西独に遠征したが、〝本番〟前、二人乗りの練習中に操作をあやまって？コースから飛び出さぬように設けてある防護の金網に激突、下に叩き落とされた。

リュージュというのは札幌冬季オリンピックで行なわれるソリの一種で時速百キロも出る。コースはコンクリートのカベの上に氷のブロックを張ったものだから、危険は当然。

味呑選手は、ほとんど意識も正常に戻らぬまま、三月初めに日本に連れ帰られたが、選手生活はもちろん〝社会復帰〟も疑問視されている。

もう一つは、ママさんバレー。PTAチームの練習中、勢いあまってネット越しにころげてきた相手にぶつかられたママさんが「ヒザが曲らなくなった」と訴訟を起した。このほど東京地裁は、これに対し「スポーツにある程度の危険はつきものであり、参加者にはそれが〝常識〟である」と、損害賠償の請求を却下したのである。

×　×　×

アマ・スポーツの最高機関・日本体育協会や関連競技団体は、この二つの事件をきっかけに〝選手の傷害補償〟に、真剣に取り組み出した。

体協は国体参加者と五輪代表などの海外遠征、また主要競技団体も海外派遣選手団に、必ず保険をかけている。金額は五十万円ていどで、今度の味呑選手のような場合、そして不幸にも、死亡事故などがある場合は、これでは間に合わないが、ないよりはマシで親切である。

札幌冬季五輪の候補選手、コーチにはトレーニング中の事故も含め、今年度から保険がかけられ、また、今年からいっせいに始まる中学生以下の各種スポーツ全国大会でも、保険をかけることが、大会認可の条件の一つになっている。

×　×　×

ママさんバレーに対する判決は確かに、スポーツ界にとっては〝常識〟であり、事故の責任は、原則として選手個人が負うものだろう。だがそれですまして、スポーツの発展はあり得るだろうか。

競技団体登録者全員を対象とする補償制度は、なかなかむずかしいが、それでもあえて「何とか考えよう」という競技団体関係者も多いのだ。ましてや、海外代表は、遠征費の負担はどうあろうとも、競技団体の〝財産〟であり、その身柄については競技団体が〝責任〟をとるべきものでないのか。

バドミントンは、スキーや登山、サッカー、ラグビーなどにくらべ、はるかに危険度は少ない。しかし、だから、保険など…ということはないだろう。現に長崎国体では、ユ杯代表の後藤和子（新潟電々）はじめ、何人かが足などをケガしている。

今度の場合も、単にアキレス切断でよかった。もし、飛行機事故などがあったら、日本協会はどうするのか。今度ばかりでなく、過去何度かの海外遠征に、ほとんど協会としては保険をかけた例がないという。私は卒直にいって、あいた口がふさがらなかった。保険料などタカが知れているではないか。

傷害対策はスポーツ界あげての急務である。日本協会ばかりでないが役員、幹部諸氏は、各紙のスポーツ面、社会面ぐらいは克明に読んで、〝時流〟を研究し、他の競技団体に先んじて、普及、発展のための手を打つぐらいに、なってほしい。

（東京新聞・後藤忠弘）

第一線選手の就職・進学さき

第一線の大学、高校選手たちの進学、就職さきが決まった。（もっとも高校勢の進学組は入試期日の関係で、不明のものが多いが）

森は川島紡 池田は電々東京へ

まず、男子のト杯グループで、全日本学生ダブルス優勝組の森（法大）は川島紡、同じく、池田は電々東京へ。インカレの単4位・梶野尾（法大）はヨネヤマ・ラケットで、日本の男子№1小島一平と机を並べることになった。

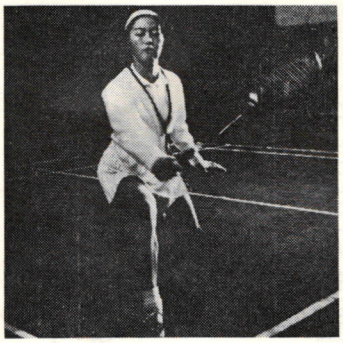
女子のユ杯選手で新潟青陵短大の相沢と竹中は、ともに一年間、母校の研究室に残るので、今後が期待できる。インカレの女子ダブルス4位青学大の主将だった松本は川島織物が決まった。

注目されるのは、東大阪のグループ。東大阪短大の池田（関西学生女子単複各1位）と同ダブルスのパートナーだった篠山は、そろって三菱電気伊丹へ入社するが、そのあとをうめるメンバーが豪華だ。

この二年間、高校全タイトルを独占してきた柴山、そのダブルスのパートナー高崎、この二人とインターハイ、国体で団体優勝のメンバーだった大場、坂本と、以上四人は、そのまま母校の短大へ。

また柴山のライバルといわれ、全日本総合でもベスト8に残った石崎（栃木・真岡女高）、インターハイの複2位・及川（岐阜・富田女高）が、やはり東大阪短大へ合流する。

「インカレを制覇、ユ杯へ」という佐藤監督の意気込みは、もっとも早い機会に実現すかもしれない。



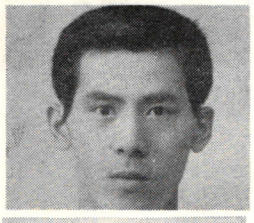
◀柴山きよ子



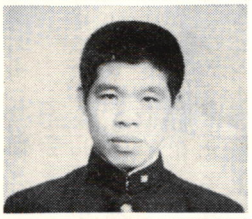
▼相沢



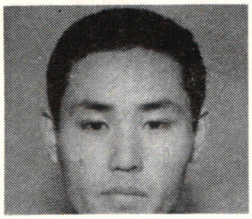
▼竹中



▼森



▼池田



▼梶野尾

相沢、竹中は母校研究室へ
柴山、石崎らで充実の東大阪短大

【男子】▼桶谷文夫（中大）↓未定▼森芳夫（法大）↓川島紡績▼池田信孝（法大）↓電々東京▼梶野尾昌一（法大）↓ヨネヤマ・ラケット▼近藤繁（早大）↓第一中央汽船▼横須賀稔（日大）↓中野警察署▼堀幸短（立大）↓トヨタ自動車工業▼寺前信之（立大）↓富山日産▼瀬戸孝（立大）↓産業能率短期大学編集課▼落合孝之（関東学大）↓河崎ラケット▼平井克英（慶大）↓河崎ラケット

▼佐藤信夫（慶大）↓北辰電機▼七戸邦厚（青学大）↓弘前相互銀行▼高橋和雄（明大）↓太源▼田中英世（千葉大）↓東洋陶器▼布川賢一（北大）↓エッソ石油▼高野幹男（同）↓小樽水族館▼野川豊（同）↓札幌市役所▼福士敏夫（同）↓三菱電機

【女子】▼松本直美（青学大）↓川島織物▼茨田清子（日体大）↓安原呉服店▼大関洋子（昭女大）↓愛知淑徳学園▼渡辺治美（杉野女子大）↓大学助手▼前田美似子（学芸大）↓小平第十四小学校

▼相沢マチ子、竹中悦子（新潟青陵短大）↓同研究室へ▼池田栄子、篠山和江（東大阪短大）↓三菱電機伊丹製作所

▼柴山きよ子、高崎弘子、大場照美、坂本恵子（東大阪高）↓東大阪短大▼石崎茂子（真岡女高）及川恵子（富田女高）↓東大阪短大

【学連委員】▼本島義男（明大）↓西武百貨店（渋谷）▼中田正彦（日大）↓川鉄金属株式会社▼今井由紀子（青学大）↓家事手伝い▼金子賢太郎（明大）↓伊藤ハム▼後藤郁也（慶大）↓間組▼市川ひろみ（杉野大）↓杉野大助手



中学生の全国大会を早く実現してほしい

僕は埼玉県越谷市立北中学校バドミントン・クラブの主将です。

この手紙の目的は、中学生バドミントン愛好者のために、全日本中学生競技大会を開催してほしいということなのです。

これは僕一人の望みではなく全国中学生の願いではないでしょうか。ほかのスポーツでは、今年から、いろんな大会をやると聞いています。

なぜ中学生の大会を開けというのか——バドミントンは、まだ、ほかのスポーツにくらべて愛好者が少ない。それで、競技者を多くするために、いろんな努力が必要だと思います。

野球やサッカー、バレーなどに負けないよう、バドミントンを盛んにしたい。だから、いつも〝陰〟にいるバドミントンが他の競技に先きがけて、大会をやることは、愛好者をふやす、いい手段ではないでしょうか。

また、もし、大会が開催されることになれば、中学校でクラブ活動にバドミントンを取り入れるところも出てくると思うのです。

日本のバドミントンは、女子はユ杯保持国となっていますが、男子はト杯の栄冠までに、まだ努力が必要です。男女そろって世界のレベルに引きあげるためには、やはり中学校の競技を盛んにすべきではないでしょうか。

なお、僕は今度、三年になりました。ですから、なるべく僕の中学校生活が終わらないうちに、大会をやってほしいのです。僕は、昨年十一月の埼玉県総合バドミントン競技会に、コーチをしていただいている先生とダブルスを組んでベスト8にはいりました。ですから、いま、腕がムズムズしているのです。

（埼玉・木村義明）

〝来年から実施〟で検討
ブロック大会も盛んにしたい

お答えします。まず結論からいいますと、日本バドミントン協会としては、来年から中学生のための全国大会を開くという方向で、検討を進めています。

開催の意義については、あなたが、手紙の中で述べられているとおりで今後は、中学生ばかりでなく、幼児からママさんや中年男性など、国民のあらゆる人々にバドミントンを広めていく必要があります。

しかしながら、話を現実にもどしますと、大会をやるためには、いくつかの問題があるのです。

第一は、学校の関係です。現在、まだ、中学生であるあなたには理解しにくい点があるかもしれませんが、文部省↓教育委員会↓学校↓競技団体の間で話し合わなければいけないことが多いのです。

それは、中学生のスポーツ活動については、生徒の皆さんが、まだ義務教育の段階にあるため、スポーツに熱中しすぎて、勉強がおろそかになったり、身体をこわしたりしないように、という配慮から、文部省が〝次官通達〟というおふれを出してこまかい基準を決めているからです。

ひと口にいって、中学生の皆さん、自分の学校以外の場所で試合をやるときでも、部長、顧問、監督、コーチといった先生に、いろいろお世話をかけなければなりません。

このため、先生がたの集まりである中体連と、事前によく相談して、スムーズに大会が開けるよう、時間が必要です。

さらに、大会の時期は、春休みがいいか、夏休みがいいか、参加選手や、運営のためのお金をどうするか、などの問題もあります。

なお〝次官通達〟によりますと、中学生の対抗試合（自分の住んでいる都道府県より大きい単位で開くもの）は、ブロック大会（たとえば関東地方大会）、全国大会とも年に一度ずつなら、いいことになっています。

あなたのご指摘どおり、中学でバドミントンのクラブを持っているところは、バレーやサッカーなどにくらべると少ないので、全国大会だけでなく、地方ブロック単位の大会も、

盛んにしていくことが大切だと思っております。（日本バドミントン協会）

編集部から——中学生の皆さんのためになる話やニュースが今後も、この「バドミントン界」にどんどん掲載されますから、お友達の方々に、大いに宣伝して下さい。

登録の手続きなど教えて

私は、いま大学三年ですが、高校二年のときに登録したきり継続の手続きをしていません。ずっと会員として登録していきたいのですが、どのような手続きをとったらよいのでしょうか。お教え下さい。

それから三級の公認審判員の資格を持っていますが、こちらの方の登録の仕方もお教え下さい。

（東京・独協大尾崎道子）

★日本バドミントン協会へ入会したいと思いますが、手続きなどを、お教え下さい。

（京都・桜井誠、東京・四方田裕、長野・畑一平）

地方協会から申し込むこと

お答えします。第一に会員登録の件ですが、これは一年ごとに登録し直すことになっていますので、手続きは新規、更新も全く同じです。

登録は各都道府県を通じますが、府県の中に、さらに支部協会がある場合は、そこから手続きをしなければなりません。そこで、まず府県協会の事務局へ連絡の上、どこから登録すればいいか、確かめて下さい。

また、日本協会へ直接、登録はできませんので、日本協会へ登録したい方は、地方協会へ登録するさい、「日本協会への登録もお願いします」と、忘れずにつけ加えて下さい。

登録料は、必ずしも一定しておりません。日本協会へ登録すれば、地方協会におさめたお金のうち百円が、日本協会へまわってくることになっています。

なお、日本協会に登録していない場合は、次の七大会の出場資格がなく、また、審判の検定を受ける資格がありません。

▼全日本総合▼全日本学生▼全日本実業団▼全日本社会人▼全日本高校▼全日本教職員▼国体

つぎに審判の登録の仕方も同様ですので、都道府県協会にお聞き下さい。なお、昇級のための検定は、各府県協会、日本協会でやっています。登録している審判には、そのさい、連絡が来ます。三級審判員は、資格をとってから満二年たたないと二級検定を受けることはできません。

◉東京都協会　事務担当連絡先き＝中央区銀座2の8の5石川株式会社内、浅岡武（電561の0176、自宅は葛飾区四ツ木1の33の19、電693の3322）

◉長野県協会　事務担当連絡先き＝松本市丸の内3の7松本市役所内上条炳（電3の30000、自宅は松本市島立4851）

◉京都府協会　事務担当連絡先き＝京都市上京区岩栢院町京都地方保険局、北村昇一（電441の5171）

（日本バドミントン協会事務局）

バドの映画など貸してもらえますか

バドミントンに関する映画などがあったら、お教え下さい。また、それは借りられるでしょうか。（松本市・逸見兼良）

お答えします。くわしくは「バドミントン界第7号」の全国高校選抜合宿の記事（毛利清志氏が書いたものの末尾）に出ています。簡単にいいますとト杯第6回（東京大会）ユ杯第4回、第5回（ニュージーランドと東京大会）が主なもので、いずれも貸し出し料二千円です。しかし、遠方に貸し出すのは、いろいろ困難も伴うので、日本バドミントン協会事務局に、具体的なことを書いて問い合わせて下さい。

なお、協会指導委員会では、今年度から、フィルムなど視覚による資料をととのえていく計画です。

読者の皆さんへ

皆さまからのお便り、質問を歓迎します。

内容は特には制限しませんが、技術指導上に関する質問や疑問などの場合は、しかるべき先生方にお答えを頂く関係上、多少、時間がかかることもあるので、ご了承下さい。

協会や本誌に対する注文、要望などはもとより、バドミントン競技の発展につながるご意見なら、なんでも歓迎します。

また、読者同士のお便り交換もけっこうですし、第一線選手に対する質問などがあれば、編集部でお取りつぎいたします。

群馬

盛大に協会20周年記念行事

群馬県協会（日野貞夫会長）は二月二十二日、創立二十周年を記念して、桐生市（市民体育館、レストラン・テング）で、三部にわたる、盛大な行事をくりひろげた。

県協会誕生は昭和二十四年九月十八日。昨年夏は、第二十回全国高校選手権大会を開催して地元のレベル・アップとバドミントン熱に拍車をかけたが、このたびの記念行事は、さらに一層の飛躍の足がかりになるものと期待される。

第一部は功労者の表彰式。これは四つに分かれ、一つは日本協会関係者など、県外功労者の表彰。三氏、二団体に感謝状と記念品が贈られた。

ついで県協会の役員、指導者としての功績のあった三氏に功労賞。協会規定による技能賞、特別技能賞が、優秀団体、選手にそれぞれ贈られた。

特に注目を集めたのは特別技能賞を受けた二組の三人兄弟選手。二組の兄弟はいずれも国体・全国高校に参加、うち西村兄弟は県総合大会でも各単一位の成績を収めるなど、県の技術向上に多大な寄与をした。

なお、二十周年を記念、村上忠治氏（ＮＢＩ社長）から素晴らしいカップが協会に寄贈された。

第二部は競技会。功労者の方々と協会役員の親善試合、県第一線級の男女一般選抜×高校選抜の対抗戦（**レコード欄参照**）が行なわれた。

ひと汗流したところで、披露パーティー。招待ゲストの日本協会、県体協、市体協関係者を囲んで歓談〝成人〟を迎え、よりうやく青年期に達した県協会への激励をいただき乾杯、今後の努力を誓った。（群馬県協会理事長・増田保夫）

表彰者つぎの通り。

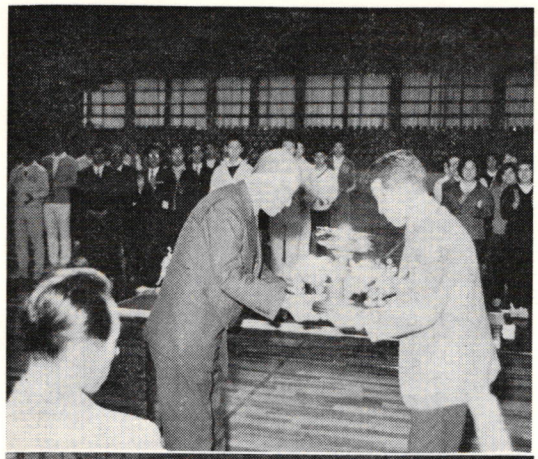
【功労賞】 小林芳蔵（副会長、初代理事長）上田敬治（副会長、二代理事長）西巻育夫（桐生商高監督）

【技能賞】 桐生商高バドミントン部（全国高校二位）内田通夫、桐生台次郎、渡辺稔、小林一行（国体、高校二位、高校単複入賞＝桐生商高）浅野佳夫（国体五年連続出場＝三ツ葉）

【特別技能賞】 西村彰司・利稔・順三。稲村豊・治・浩

【県外功労賞】 株式会社諸江製作所、日本バドミントン・インダストリ株式会社

今井先（ユ杯監督、東京・二階堂高教）村山幸雄（日本協会事務局長）松本弘充（日本協会常務理事、高体連担当）





▲（上）第一部　表彰式で村上氏からカップの寄贈
（下）第三部のパーティー風景

高学年（小学生）に人気

バドミントン　札幌教師の調査

バドミントンは、小学校高学年に人気がある――ことがわかった。

これは北海道・札幌市の教育研究協議会教育相談部が行なった「遊び調査」の結果。

同部では市内の南小学校と曙小学校の各学年八十人ずつ、計四百八十人を対象に「子供たちが知っている遊び、近ごろはやっている遊びの種類、なぜ、その遊びが好きか、危険度」などをアンケート形式で調べた。

これを北海道新聞が取り上げ（12月25日付け）「冬休みなどを事故なくすごさせ、また、いい遊びを指導するには、親たちも、子供の遊びに通じておく必要がある」と警告した。

以下、その内容を簡単に紹介するが、高学年になるほど〝スポーツ競技的〟な遊びが興味の中心になり、バドミントンはサッカーを抜いて第二位の人気もの。

とはいえ、半面、幼いものほ

どプロレスごっこ、手裏剣、など危険なものにとびついており考えさせられる。

これらの多くはテレビに影響を受けており、おそらく全国共通と思われる。両親や先生たちが、バドミントンのように、楽しく、よい遊びを指導することが大切なようだ。

〝近ごろはやっている遊び〟を列記すると

【低学年】 ①野球けん（コント55号、着衣をぬぐ）②宝さがし③レンジャー遊び④基地遊び⑤ゲバ棒⑥柔道遊び⑦絵をかく⑧ゲーム⑨００９の１（どろぼうごっこ）

【中学年】 ①プロレス②野球けん③サッカー④野球⑤人間しょうぎ

【高学年】 ①転回②バドミントン③サッカー④ドッジボール⑤ソフトボール⑥モウレツごっこ⑦卓球⑧プラモデル⑨自転車遊び⑩マッサージ（腰や腹をもむ）⑪パズル⑫スーパーボール⑬うらない⑭バレーボール

以上の中のほかにキックボクシング、手裏剣、忍者ごっこ、スカートめくり、お医者さんごっこ、花火、自転車の手放し乗り、…など、先生方が気づいている〝要注意〟もかなり多い。

お互いに、気をつけたいものだ。（北海道協会理事長・内田正博）

「働く青少年のスポーツ教室」から

宮崎 〝サインはV〟 クラブ誕生!!

昭和四十二年に宮崎市中小企業労務改善協会、労働省婦人少年室、宮崎市教育委員会の主催で、四月から九月までの半年間、中小企業で働らく年少者（女子）を対象に、市内H中学の体育館でスポーツ教室が開設された。

種目はバドミントン、バレーボール、美容体操、フォークダンス。動機は「中小企業で働らく年少者が、スポーツがしたくても施設がない、指導者がいない、仲間がいない」等だったが、まずは健康保持の増進、そして作業や仕事に伴う緊張から解放されて新らしい元気をとりもどす、さらには、スポーツを通して望ましい人間関係をつくることなどを目的にした。

本県では中学、高校の体育の正課に、バドミントンが取り入れられていないため、会員は、ほとんど社会人になってからはじめたものばかりだ。そこで、スポーツ教室に参加した者も、はじめは羽根つき程度がやっとで、この半年間は指導者も苦労の積み重ねだった。

しかし、その苦労が実り、アンケートの結果では他の競技にもおとらず「これからも、バドミントンを競技としてつづけたい」というものが36％もいた。そして、この教室がきっかけとなり、愛好者が集まって〝ビクトリー・クラブ〟が誕生した。

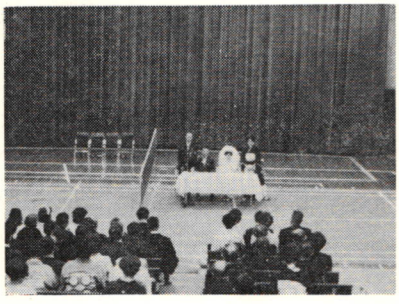
〝サインはV〟だ。

だが、これからが大変。会員の勤務先はまちまち、時間はもちろん、予算もなく、最初は練習日程も組まれなかった…が市内の事業所（クラブ）の協力もあり、軌道にのるまでは、と週一回、木曜日に合同練習に参加することになった。

これがクラブ誕生としての第一歩。今年六月で丁度、一年を迎える。一時はマスコミのおかげで会員も三十人から四十人にもなり、多すぎて？困ったこともあった。

現在は男女十人のクラブで夕方六時から九時すぎまで練習に励んでいる。また、県体育館ではますます増えることだろう。

関係者のご声援をお願いしたい。（宮崎県協会・松本行弘）



山本マネが〝バド結婚式〟

第二、第四月曜日の夜間に「スポーツ教室」が開設されておりこれからもバドミントン愛好者

ユ杯東京大会のマネジャーで日本のカップ防衛、陰の功労者山本洋彦氏（慶大出・北辰電機勤務、二十七才）が二月十日横浜の聖マンデレ教会で千石要子さん（二十三才、小田原市役所勤務）と結婚式をあげた。

アイデアマンらしく披露宴も奇抜、体協の地下体育館と特別食堂を使っての立体作戦。

その体育館では、ユ杯代表メンバーと北辰電機中山氏などによる混合ダブルスの模範（？）試合が行なわれ、新郎は日女体大の本間恵美子さんと、対する相手は中山氏と全英チャンピオン湯木博江さん。審判も主審に協会審判長の内藤氏、線審は川端理事長、小宮副理事長、往年の名プレーヤー杉田氏、協会事務局長村山氏、サービス・ジャッジに今井ユ杯監督という豪華メンバー。

試合は、この日に備えモーレツなトレーニングに励んだ新郎山本氏のみ快調、審判員の迷ジャッジ（？）や協力（？）もあり、山本組がワンサイドで快勝した。

なおこの試合は、披露宴の進行役・金子氏（東京12チャンネル・アナウンサー）が中継放送気味に解説し盛り上げた。

当初は高木・天野組も出場の予定だったが新幹線が遅れ、タッチの差で間に合わず、車中でユニフォームに着がえる努力もしたが実らなかった。

【各地の話題】

北から南から

早わかり競技規則
ルール100問？
連載 ⑥

2. シャトルとネット
（規則第4条）

問31　シャトルの検定についてお話しして下さい。それからIBFの公認球についても。

答　IBFという言葉を覚えましたね。まず国内のことからお話ししましょう。日本バドミントン協会がシャトルの公認制度を設けたのは昭和二十五年です。勿論、検定の結果合格したものを公認球とし、全国大会はこの公認球で行なったのです。その後、毎年検定会は開かれましたが、昭和三十三年度から公認制を廃止し、「検定合格球」と呼ぶようになりました。全国大会等は、この合格球だけで行なっています。

日本バドミントン協会が出来た頃は、一般に飛距離の短かいシャトルが使われていました。それが、毎年の検定によって、次第に是正され、現在では、少くとも正しい速調のものでなければ合格はしません。しかし、まだ一般のプレーヤーは飛ばないシャトルを好む傾向が強いので、実際に市販されるシャトルは、合格の証紙がはってあっても、飛ばないものがあるようです。日本バドミントン協会としては、製造業者の指導を怠たらぬ一方、正しい速調のシャトルを各種全国大会で使用する現在の態勢を忍耐強く継続して、プレーヤーを啓蒙することが大切だと考えます。

競技規則に定められたシャトルの規格のうち、一番重要なのは速調です。規定通りのコートに規定通りの高さにネットを張り、規定通りの速調のシャトルを使って行なうのが本当のバドミントンです。

シャトルの速調が変れば、打法や戦法が根本から変って来ます。飛ばないシャトルや飛びすぎるシャトルでプレーするのは外見はバドミントンに似ていても、実は本当の意味のバドミントンではないといい切っても差し支えありません。

ですから、国際規則にあるように、材質や寸法が規格通りでなくても、全体の形がシャトル特有のデザインで、重量が規格に合っており、そして速調が正しければ、バドミントン本来の技術を研修するのに何も支障はないのです。

ただし、日本では今のところ、材質は勿論、コルクの直径1㍉長すぎても、検定合格球とは認めません。

次にIBFの公認制度のことですが、実はIBFの公認球というものはないのです。しかし、国際試合に用いるシャトルが、両国間の話し合いではきまらない場合には、IBFが決定することになっており、その際には「RSL」という英国製のシャトルが指定されるようです。

問32　RSLとはどういう意味の言葉ですか。

答　「RSL」はその会社名"Reinforced Shuttlecocks Limited"の頭文字を取ったものです。RSL球は、実は、羽の広がりの直径が1㍉ばかり長すぎるのです。けれども、速調は実に正確です。

シャトルの目方は73グレン（4・78㌘）から85グレン（5・5㌘）ときめられていますが、RSL球は1グレン刻み11種類の目方のものに区分され、同じ一本の筒の中に同じ目方のシャトルが1ダース入っています。

シャトルの飛びは会場の空気抵抗によって変りますので、気温が上って空気密度が低くなると軽いシャトルを使い、寒くなれば重いものを使って、常に正しい速調のシャトルでプレーします。

同じ場所で、湿度が一定ならば、温度計だけ見て「○○度だから○○グレンのシャトルを」と簡単にきめられるのです。これはRSLの速調が正確だからできることですね。

日本のシャトルも最近はオートメ生産となり画一化されました。ラケットの柄をつっこんで羽を拡げたり、羽の先端を折りまげたりして飛びを調節する悪い習慣もほとんどかげをひそめたようです。

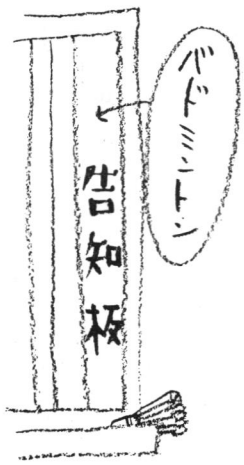
問33　日本で出来るシャトルはRSLより悪いのですか。

答　やはりいくらかおちるようですね残念ですが。これには色々な理由があるので、決して、日本の製造業者の能力が低いためではないのです。第一番の理由は材質です。材質といっても競技規則の規格から外れているのではなく、羽と書いてあるのに対し、RSLは、鷲鳥の羽を使っているのに日本では長年の間、鶏のを使って来たからです。水鳥球と陸鳥球の違いですね。鷲鳥の羽は輸入に待たねばならず、価格も高いのです。

陸鳥、つまり鶏の羽で造っていたため、水鳥球の⅔くらいの値段でシャトルが買えたわけでわが国でこんなにバドミントンが普及したのも、安いシャトルが供給されたからこそです。陸鳥のシャトルだったら、日本のものは世界中で一番優れているに違いありません。

昭和三十八年度の検定会には大変嬉しいことに、水鳥球が提出され、5種類が合格しました。国際試合が活発になったバドミントン界の現状を見て、製造業者が採算を度外視して協会に協力し、わが国のバドミントン・プレーヤーに貢献したいという熱意の現われかと考えます。

その後現在までに水鳥球の普及はめざましく、これは打法にもプレーの進め方にも大きな進歩をもたらしました。女子が世界選手権に二連覇し、男子も近い将来に世界制覇をしそうになった陰の功績かと思います。近い将来に、RSLに優るとも劣らぬ優秀な水鳥球が国産されることでしょう。



線審のゼスチュアなど改正

4月1日から

◆日本協会審判委員会

一月の会議で「審判心得」（線審）の一部改訂案について審議つぎのように決めた。

2—1　第29の5行目以降をつぎのように改める

「…両方の手指をそろえ、両腕を肩の高さで水平に開き、手の平を前方に向けてサインする。シャトルが中に落ちた場合は、何もいわないで、片方の腕をその手指をそろえて、斜下方にのばす。」

（以下「見えなかった場合には…」に続ける）

2—2　上記心得は昭和45年4月1日を以て実施する。

2—3　文章を改めると同時にゼスチュアを図解する。

昇級審査日も変更

このほか、従来の昇級審査を日本協会総会及び、全国理事会の時期変更に伴ない、つぎのとおりにした。

▼昇級審査締め切り＝5月31日、及び11月30日

▼審査＝5月31日締め切り分については、7月の理事会時、11月30日締め切り分については1月総会時に審査する。

学連関係の新役員決まる

◆**全日本学生連盟**▼委員長菅原元（慶大）▼副委員長　谷浦隆（日体大）民谷憲二（大阪市立大）

◆**北海道学生連盟**▼委員長宮嶋克己（北大）▼副委員長未定

◆**東北学生連盟**▼委員長　遠藤孝雄（東北工大）▼副委員長但木健（宮城教大）

◆**関東学生連盟**▼委員長　大場直美（日大）▼副委員長　久永公夫（国学院大）▼会計　守多美智子（昭和女大）

◆**中部学生連盟**▼委員長　小林洋栄（中京大）▼副委員長松本安司（名大）伊藤秀一（三重大）

◆**関西学生連盟**▼委員長　秋山正文（近大）▼副委員長　宮崎博幸（同大）▼会計　溝辺信吾（追手門学院）

◆**中四国学生連盟**▼委員長　山田茂（岡山大）▼副委員長　山下哲男（香川大）倉田次男（鳥取大）

◆**九州学生連盟**▼委員長　広瀬英治（九州大）▼副委員長　北村圭子（熊本商大）斉藤義久（熊商大）古川憲一（福岡教大）山浦直（鹿児島大）

国体バドの参加者ふえる？

国体については、現在、体協（日本体育協会）が、改善について研究を進めているが、大要つぎのようにまとまっている。

①昭和50年（第30回大会、本年は第25回＝岩手）から、19歳をさかいに、種別を成年男女、少年男女の四つに新しく編成しなおす（教員の部が消える）

②参加人員については開催地の規模、経費などにより一万七千、一万五千、一万二千の三案がある。

一万七千案の場合、バドミントンは成年女子、少年男女の三つが、現在の10チーム参加から16チームにふえる。

③中学生の国体参加については、今後、全国ジュニア大会が多くなるので、さらに検討する。

昭和45年度日本協会予算

▶収入の部		▶支出の部	
総経費	2,442	総務費	5,540
会　費	1,842	会議費	1,400
補助金	600	運営費	4,140
事業費	3,210	事業費	1,830
シール代 審査費	3,210	大会費	750
		事業費	1,080
国際交流費	200	雑支出	350
雑収入	368	予備金	100
	7,820		7,820

（注）ほかに国際競技関係などの競技力向上費として体協より，約２００万円の補助（過去の実績）が見込まれているが，現在，不確定。

◇昭和44年度大阪総合選手権大会（45年3月7、8日・大阪市立阿倍野体育館外）

◆一般男子シングルス

▼準決勝

久保川（YMCA）2 — 15 10 15 — 4 1 三木（電々大阪）
15 — 8 15 4 — 1

竹原々（電大阪）2 — 15 — 7 0 竹端（KDD）
15 — 4

▼三位決定戦

三木 2 — 15 — 6 15 — 0 竹端
15 17 6

▼決勝

竹原 2 — 15 — 4 0 久保川
15 — 2

◆一般男子ダブルス

▼準決勝

久保川、加藤（MCA）2 — 15 15 — 9 三木、品川 2
15 8 15 — 7 15 1

遠藤、大塚（スワロー化研）2 — 15 — 12 12 0 竹原、山本（電々大阪）
15 — 12 10

▼三位決定戦

品川 2 — 15 — 10 9 0 竹本
15 — 10

▼決勝

久保川 2 — 15 17 17 — 9 18 16 1 大遠藤塚
15

◆一般女子シングルス

▼準決勝

高崎（東大阪高）2 — 11 11 — 4 5 0 柿本（電々大阪）
11 — 8 11 — 9 8 1 大場（東大阪高）

柴山（東大阪高）2 — 11 11 — 9 8 11 — 6 3 1 大場（東大阪高）
11 — 8 11 — 9 6

▼三位決定戦

大場 2 — 11 11 — 5 7 0 柿本
11 — 7

▼決勝

柴山 2 — 11 11 — 7 7 0 高崎
11 — 7

◆一般女子ダブルス

▼準決勝

大場、高崎（東大阪高）2 — 15 — 7 4 0 柿本、森阪（電々大阪）
15 — 7

柴山、坂本（東大阪高）2 — 15 15 — 2 17 1 下村、久保田（電々大阪）
15 14 — 1

▼三位決定戦

森本 2 — 15 — 1 5 0 久保村田
15 — 1

▼決勝

大崎 2 — 15 9 — 15 11 1 柴本山
15 — キケン 15 11

◆成年男子シングルス

▼準決勝

北野（教員ク）2 — 15 — 10 12 0 奈良（教員ク）
15 — 10 11

出口（教員ク）2 — 15 — 9 7 0 島津（教員ク）
15 — 9 6

▼三位決定戦

奈良 2 — 18 15 — 14 0 0 島津
18 15 — 14 10

▼決勝

北野 2 — 15 — 8 10 0 出口
15 — 8 8

◆成年男子ダブルス

▼準決勝

宮脇出口（教員ク）2 — 15 — 11 9 0 奈島良津（教員ク）
15 — 11 8

溝武村淵（KDD）2 — 16 15 17 — 17 12 14 1 北宝来野（教員ク）
15 — 17 12 10

▼決勝

溝武村淵 2 — 15 — 9 11 0 宮脇口
15 — 9

▼三位決定戦

宝来北野 2 — 15 — 5 9 0 奈良島津
15 — 5

◇群馬県協会創立20周年記念競技会（45年2月22日・桐生市民体育館）

◆男子の部

一般選抜 3—3 高校選抜

○稲村豊浩（オヌツヤ）2 — 15 — 11 9 0 内田渡辺稔（桐商）
15 — 11 6

◆女子の部

一般選抜 3—0 高校選抜

○小川井 2 — 15 17 — 10 15 0 佐藤（農二高）
15 — 10 12

青柳面川（自営）2 — 15 — 5 2 0 小林須田（桐商）○
15 — 5 2

小池（境野中）藤井（高経大）0 — 3 11 — 15 2 桐生下田（桐商）○（農二高）
15 — 11 15

阿久戸渡辺（三菱電機）0 — 7 6 — 15 2 岡田露久保（桐高）○
15 — 7 15

稲村浩 1 — 10 15 — 15 8 1 桐生
15 — 10 8

浅野（三ツ葉）1 — 12 15 — 15 2 1 佐藤
15 — 12 2

小川 1 — 17 7 — 15 15 1 内田
15 — 17 7

○藤井 2 — 15 — 7 4 0 篠田（前商）
15 — 7 4

白林（東京三洋）1 — 15 2 — 13 15 1 大川（桐商）
15 — 13 15

小谷野（三ツ葉）栗原（東女体大）1 — 15 15 — 18 7 1 細谷形（境高）
15 — 18 7

永井加藤（東女体大）1 — 15 15 — 15 10 1 島田秋山（前市女）（農二高）
15 — 15 10

○根岸橋（三ツ葉）2 — 15 — 11 12 0 清水金子（境高）
15 — 11 12

天田（自営）松野（群大）○2 — 15 — 9 10 0 青木石内（桐商）
15 — 9 10

加藤 1 — 11 9 — 8 11 1 島田
11 — 8 11

○栗原 2 — 11 11 — 6 6 0 清水
11 — 6 6

◆役員・関係者の部

東軍 4—4 西軍

今本井 0 — 7 16 — 15 17 2 小上林田○
16 — 17

○増田上 2 — 15 17 — 6 14 0 西安巻井
17 — 14

○山諸内江 2 — 15 15 — 2 1 0 新岡井為田
15 — 21

小林稲村克浩 0 — 12 15 — 15 17 2 西村利順○西田
15 — 17

早川平賀 1 — 13 17 — 15 15 1 新井沢威神
17 — 15

高橋正田 0 — 13 1 — 15 15 2 大谷船津○
1 — 15

今本井松 1 — 15 14 — 11 18 1 安井巻西
14 — 18

村上田増 1 — 16 15 — 17 1 1 上田小林
15 — 1

○稲村治克林 2 — 15 — 12 13 0 早川賀平
15 — 13

岡田為新井 0 — 4 11 — 15 15 2 島田昭山○
11 — 15

○面川柳 2 — 15 15 — 8 11 0 大谷船津
15 — 11

昭和45年度日本バドミントン協会検定合格、審査合格用具

シャトルの部	銘柄名	会社名	摘要
水鳥	N.B.I.C.Mシルバーブルー	日本バドミントンインダストリ株式会社	
〃	N.B.I.C.Mホワイトウィン	〃	
〃	トーナメントブルー	株式会社トヨダスポーツ	
〃	トーナメントブラック	〃	
〃	ファーストゴールド	有限会社ジャワ商会	
〃	ファーストシルバー	〃	
〃	サンバタクィーン	株式会社諸江製作所	
〃	サンバタキング	〃	
〃	水鳥サンバタ	〃	
〃	ニンマ印バードトップ	西村製作所	
〃	ハイレッド	株式会社三和	
〃	グリーン	〃	
〃	ハタチビクトリー	羽立工業株式会社	
〃	トーナメント	株式会社ヨネヤマラケット	
〃	トーナメントデラッスス	〃	
陸鳥	ハタチトーナメント	羽立工業株式会社	
〃	サンバタスター	株式会社諸江製作所	
〃	サンバタ	〃	
〃	トレーニング検定合格球	株式会社ヨネヤマラケット	
〃	トレーニングコック	〃	
合成(水)	ハタチチェンジャー	羽立工業株式会社	
合成(陸)	ハタチハイコック	〃	
〃	カアルトンナイロンシャトルコックインターナショナルトーナメントモデル	日本カアルトン株式会社	
〃	カアルトンナイロンシャトルカレッヂ	〃	

ネットの部	銘柄名	会会名	摘要	番号
	ナイロンA級	鐘屋産業株式会社	検定合格	7001
	綿 B級	〃	〃	7002
	20番手12本 クレモナビニロンテトロン引紐	株式会社ジイティヤング	〃	7003
	20番手12本綿テトロン引紐	〃	〃	7004
	20番手12本綿クレモナロープ引紐	〃	〃	7005
	バドミントンネットC検定	株式会社寺西喜商店	〃	7006
	20/12本倉敷ビニロン(MATUMOTO)	松本製網株式会社	〃	7007
	ミセキ VA	ミセキネット製作所	〃	7008
	ミセキ A	〃	〃	7009

公　　告

日本バドミントン協会では総会の決定に基き、昭和45年度の協会検定、審査合格および協会推奨の用具を、本欄のように決めましたので、ここにお知らせします。

昭和45年4月1日

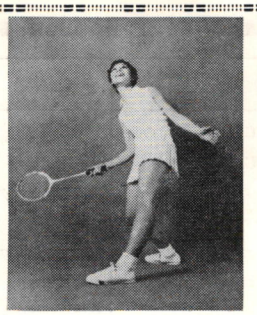
日本バドミントン協会

昭和45年度日本バドミントン協会審査合格用具推奨用具

ラケットの部	銘柄名	会社名	摘要
	ラッキーセブン張上(＃7)	株式会社ヨネヤマラケット	
	スリーエート張上(No.8)	〃	
	クインハートフレーム(＃1,000)	〃	
	カレッヂエイトフレーム(＃3,000)	〃	
	カレッヂエートデラックスフレーム(＃4,000)	〃	
	ファイブエースフレーム(＃5,000)	〃	
	ファイブエースデラックスフレーム(＃6,000)	〃	
	レディエースフレーム(＃6,500)	〃	
	アルミナエースフレーム(＃7,000)	〃	
	アルミナエースデラックスフレーム(＃8,000)	〃	
	キングダイア(＃2,000)	〃	
	コールドキング	株式会社諸江製作所	
	ダンロップ	〃	
	キングクリッパー	〃	
	キングメイト	〃	
	シルバーデラックス	〃	
	ハイ・スピード(No.2)	大阪合繊株式会社	
	ハイ・トーマス(No.3)	〃	
	フィアレス(No.10)	〃	
	フェニックス・インペリアル(No.30)	〃	
	エクセレント(T－1)	〃	
	ブルーリース(No.B－6P)	河崎ラケット工業株式会社	
	エバーウィン(No.206)	〃	
	カアルトンオールスチールラケットスリーポイントセブン	日本カアルトン株式会社	
	No.8 ウィンナー	株式会社トヨダスポーツ	
	No.1,000 ニューミニ	〃	
	No.3,000 ブルー	〃	
	No.4,000 アルバート	〃	
	No.5,000 ニューアルバート	〃	
ウェアーの部	(男子)＃106 ショートパンツ	株式会社ヨネヤマラケット	
	(男子)＃107 シャツ	〃	
	(男子)＃105 ショートパンツ	〃	
	(男子)＃108 シャツ	〃	
	(女子)＃203 ミニスカート	〃	
	(女子)＃204 シャツ	〃	
	(女子)＃202 ミニスカート	〃	
	(女子)＃205 シャツ	〃	
	(女子)＃200 スカート	〃	
	(男子)＃104 ショートパンツ	〃	
	(男子)＃109 シャツ	〃	
	(女子)＃206 シャツ白	〃	
	(男子)No.500 リースバドミントンシャツ	河崎ラケット工業株式会社	
	(男子)No.533 リースバドミントンショートパンツ	〃	
	(女子)No.500 リースバドミントンシャツ	〃	
	(女子)No.592 リースバドミントンスカート	〃	
シューズの部	チャンピオンバドミントンシューズ	〃	
	バドミントンシューズ	株式会社ヨネヤマラケット	
	アタックシューズ	株式会社諸江製作所	
	アタックデラックス	〃	

〈表紙〉

名倉加代子（なくらかよこ）
浦辺日佐夫ワールド・ダンサーズ



○…おなじみ〝美女シリーズ〟の第三回目に、やっとキャプテンの加代子嬢が登場。

なにしろこの人ぐらい〝№1ダンサーズ〟にふさわしい踊り手はいないといわれる。

さっそうとブラウン管に登場する時、一番目につくのがこの人だ。

○…竹部玲子モダン・バレーの出身で**NTV**の〝スタジオ№1ダンサーズ〟スタート以来、生え抜きの人。

もともとクラシックの出身だけに踊りにも基礎と年季が入っているから「安心して観られる」というのが、もっぱらの名倉評。

○…「踊っているのがなによりの楽しみ」とかで〝佳い女〟なのに「恋人がいないのはおかしい」と、ファンやまわりはヤキモキするが、ご本人はいたって無頓着。

「そのうちいい人ができるでしょう」とケロッとしている。

○…そのサラッとした気持がまた受けるのだろう、ファンは圧倒的に多い。

○…「バドミントンなどやるひまがなくて……」と、踊りに明け暮れの毎日だが、こんごは余暇をつけてやるという。

お酒の方も仲々いける。飲むほどに酔うほどに楽しくなるいいお酒。もっぱらウイスキーの水割りが得意。

身長163、寸法83、60、89と至ってダイナミック。（衣裳提供カワサキ・ラケット）

次号予告

恒例の海外遠征は、女子の大黒柱である湯木、高木両選手の思わぬケガがありましたが、代わって竹中が全英に優勝、新しい〝女王〟の座につくなど、全員が輝かしい成績をおさめ、今後の日本の前進のために、明るい見通しをたててくれました。

次号は、この欧米遠征をワイド特集でお送りします。技術的に、どんな収穫があったか、また、選手の〝人間と生活〟にどんなプラスがあったか。

遠征の写真グラフ、日本選手の記録ももれなく掲載します。

このほか「バドミントン選手の対戦相手の予測認知、試合態度と性格特性の関係について」という、きわめて珍らしい研究を、やさしく、わかりやすいかたちで、紹介します。

これは東京学芸大バドミントン部の前田美津子さんが、卒業論文としてまとめたもの。試合する場合、自分の相手をどの程度調べるか、調べた方が、いい結果が出るか、念入りに調べる人は、どんな性格の人か…。興味あるスポーツマンの〝性格分析〟となりそうです。

【主な内容】

▽百万人のバドミントン上達法（伊藤、毛利、遠井先生執筆）
▽中学生指導者のために
▽日本のトップ・クラス選手強化策について（協会競技力指導委員会の会議から）
▽理事長対談
▽私の場合
▽グループ訪問（航空宇宙研究所の巻）
▽提言シリーズ
▽北から南から

編集後記

○…プロ野球やサッカーの日本リーグも開幕、スポーツのシーズンがいっせいに花開いた。わがバドミントンも、大いにがんばろう。

スポーツ界に占める地位は、昨年後半来、じょじょに上昇してきた。もちろん、世界一〝生存競争〟の激しい日本で、先行する人気種目を押しのけて〝チャンピオン〟の座につくのは、容易なことではない。

○…しかし、やればできる。「完全な解決というものはあり得ない。しかし、完全に近ずく解決はある」とは、ウ・タント国連事務総長のことばだが、まさにその通りだ。解決という文字を、バドミントンの成功に置きかえてみたらどうか。

竹中悦子が全英で優勝して、日本は輝く二連勝。これが、サッカー、バレー、あるいはテニスなどだったら、マスコミは、もっと大々的は取り上げ、騒いだことだろう。

地方、中央を問わず、協会、愛好者一体となって、競技界を盛り上げる〝大作戦〟がほしい。春眠暁をおぼえず、ではこまるのだ。

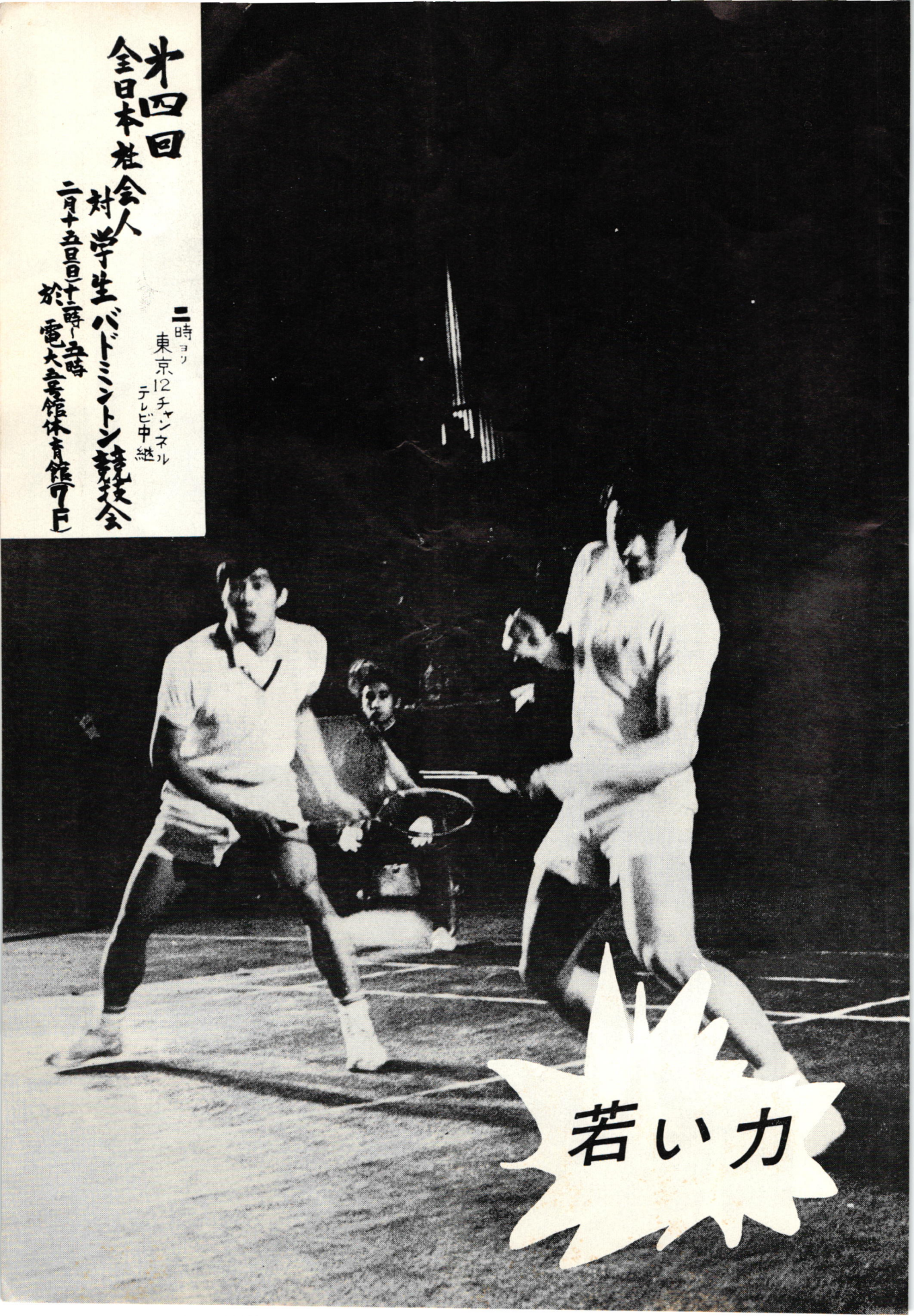
○…さいわい、スポーツ各界首脳は「バドミントンが〝社会体育〟〝全国普及のために、最適の種目」と一致して認めている。コロンブスのタマゴではないが人間の考えることは、まず似たようなもの。問題は、たれが勇気と決断をもって実行するかだ。

サッカーやバレーが、いかにして今日をきずいたか、読者のみなさんは、よくご存知のはず。ユ杯、ト杯の活躍、頂点の強化ばかりでなく、幼少年、家庭婦人、勤労者、中年の健康管理と体力づくりなどが、いまほど必要なときはない。

読者のみなさんも、中央、地方の協会や役員各位を、大いに激励、シリをたたいてやってほしい。〝不言実行〟を今月のことばとして、関係者に捧げたい。

（GHQ）

【バドミントン界】 第八号
昭和45年3月25日 印刷
昭和45年4月1日 発行
編集兼発行人 川 端 昇 市
発行所 東京都渋谷区神南町25 岸記念体育会館内 日本バドミントン協会
電話 四六七・三一一一（内線）二五一
四六七・七〇九五（直通）
郵便番号・一五〇
振替口座・東京三二一九三
印刷所 東京都江東区永代一の五の二 有限会社 和田印刷所
定価 一部 百円


第四回
全日本社会人
対学生バドミントン競技会
二月十五日(土)十二時～五時
於 電大三号館体育館(7F)
二時ヨリ
東京12チャンネル
テレビ中継
若い力

社会人×学生





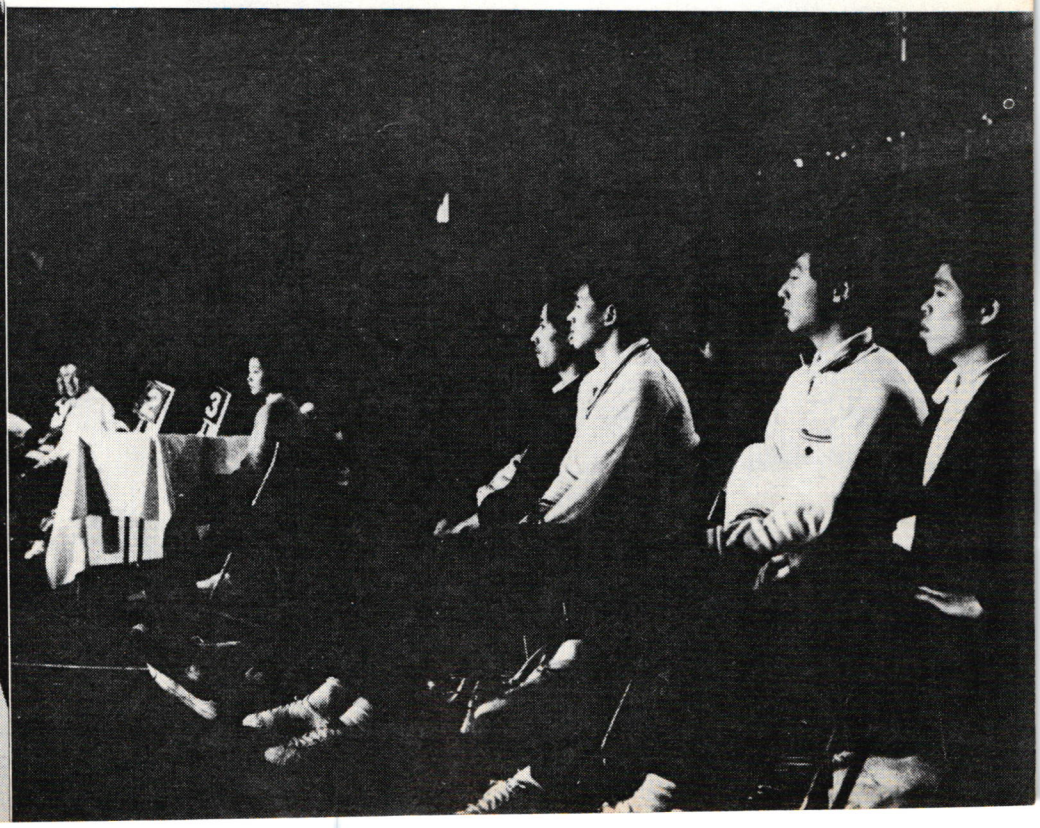
前号既報、第4回全日本社会人×学生対抗競技会は二月十五日、東京の電機大学体育館で行なわれた。

会場が二転、三転、大会直前まで決まらなかったため、はたして、ファンがどれだけ集まるか、役員たちをハラハラさせた。

しかし、そこはよくしたもの、ごらんのとおり、小じんまりした会場ながら、スタンドはぎっしり埋まって、選手たちを感激させた。

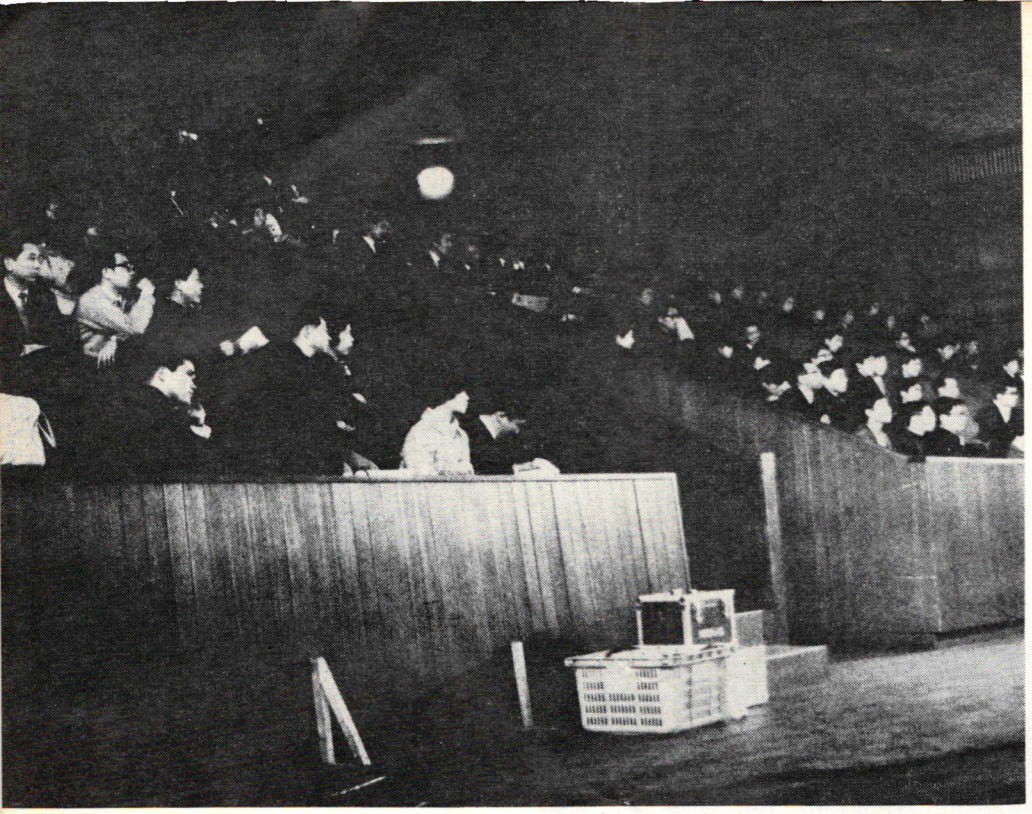
この企画、今年の正月にスタートした「女子チャンピオンズ・トーナメント」のむこうを張って〝オール男性軍〟の試合だが、このスタンド風景、最近のささやかな〝バドミントン・ブーム〟にのって「いい試合なら、お金を払っても見に行きたい」ということを証明していてうれしいかぎり。





第4回全日本学生

対抗戦から





試合は、やはりキャリアにまさる社会人組が順当に勝ったが、両軍ひっくるめて〝選手団は〝ト杯奪取〟めざす日本のトップばかり。今後の健斗を大いに期待してやまない。

写真説明、右ページ▼上＝入場受け付け、わが「バドミントン界」も好調な売れゆき　▼下＝旗色悪い学生陣のベンチ、さすがに真剣な表情

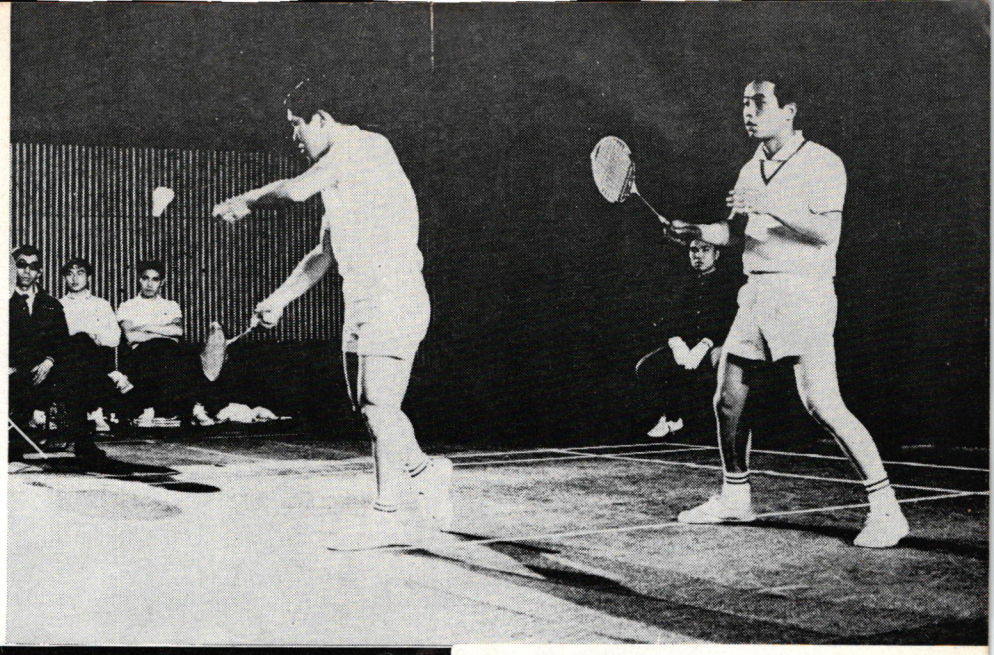
まん中▼上＝スコア掲示係りのお嬢さんも、うっとりファインプレーに見とれる。記録をまちがわないでちょうだいね　▼下＝戦いすんで日がくれて、社会人の堺主将（左端）はうれしそう

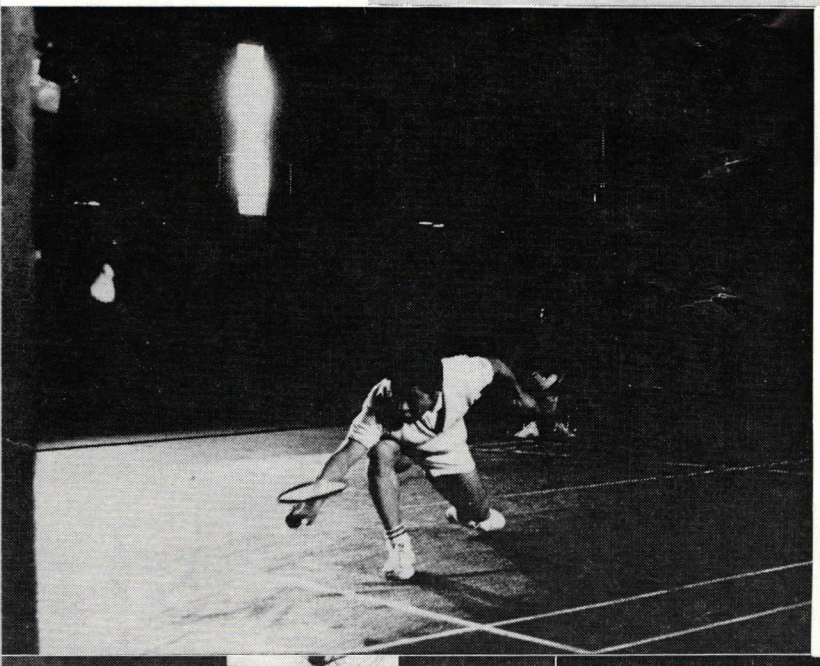
左ページ▼上＝満員のスタンド風景　▼下＝コートサイドには日本協会の役員もずらり勢揃い



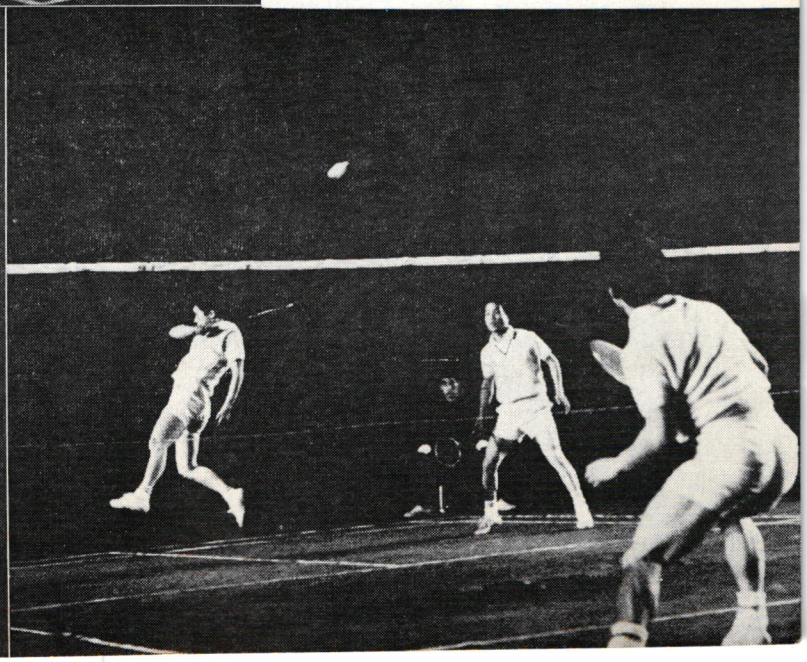


男子ナンバーワン
小島一平選手の
四態











あの娘の瞳が
トヨタを選んだ

本年度公式大会使用球

トーナメント（ブルー／ブラック／レッド）

TOYODA トヨダスポーツ

東京都台東区浅草橋5－26－7
TEL(851)9409・(866)2515

日本バドミントン協会検定合格ネット・メーカー

松本製網株式会社　大阪府八尾市福万寺町4-72　TEL 0729 (2) 3217
◎ 20／12　倉敷ビニロン（MATVMOTO）

鐘屋産業株式会社　東京都文京区本郷3-17-2　TEL 03 (811) 3773
◎ ナイロン　A級　◎ 綿　B級

（株）寺西喜商店　大阪府八尾市福万寺町4-31　TEL 0729 (2) 3210
◎ バドミントン・ネット　C検定

（株）ジイティヤング　本社　大阪市南区東平野町2-25
支社　東京都墨田区本所1-36-2　TEL 03 (623) 7155
◎ 20番手　12本クレモナビニロンテトロン引紐
◎ 20番手　12本綿　テトロン引紐
◎ 20番手　12本綿　クレモナロープ引紐

ミセキネット製作所　埼玉県北葛飾郡幸手町中1-7-4　TEL 04804 (2) 0379
◎ ミセキ　VA　◎ ミセキ　A



NO.3500　キングメイト

KING MATE

¥3,300

キングメイト発売記念クイズ

問題
① キングメイトとはなにの製品名でしょう
② サンバタ製品名を一つあげて下さい

●応募方法
官製ハガキにこたえと住所・氏名・職業（学校名又は会社名）・バドミントン用品お買上げスポーツ用品店名を明記して下記へお送り下さい。
東京都渋谷区笹塚２丁目46番８号
(株)諸江製作所　キングメイトクイズ係

●締切り
昭和45年５月30日（当日消印有効）

●発表
正解者全員から厳選抽選のうえ，バドミントン界誌上及び当選者に直接ご連絡致します。

★サンバタ賞（１名さま）
キングメイト4本・サンシープ10張・ダンロップバッグ1ケ
バドミントンシューズ4足・プレス（W）2ケ・バドミントン界1年分

★キング賞（３名さま）
キングメイト4本・サンシープ10張・バドミントンシューズ4足

★クィーン賞
キングメイト2本・サンシープ5張・バドミントンシューズ2足

★キングメイト賞（20名さま）
キングメイト1本・サンシープ2張

★ゴールドキング賞（30名さま）
ゴールドキング1本・サンシープ2張

株式会社 諸江製作所

月刊「バドミントン界」　第八号
昭和四十四年十二月二十三日才三種郵便物認可
昭和四十五年四月一日発行（毎月一回一日発行）
発行所　東京都渋谷区神南町二五
岸記念体育会館内
日本バドミントン協会
定価百円

